

# 人びとの意識はどう変わったか ～40年の動きをたどる～

2015年11月5日  
統計数理研究所 公開講演会

N H K 放送文化研究所 荒牧央

# 本日の内容

- 「日本人の意識」調査について
- 40年で変わった意識、変わらない意識
- 変化の要因
- 最近5年の変化の特徴
- 日本人の意識変化の方向

# 「日本人の意識」調査について

- 日本人のものの見方や考え方を、広範囲にわたり長期的に追跡することを目的とした意識調査
- 40年前の1973年から5年ごとに実施  
2013年で9回目
- ほぼ同じ質問、同じ手法で実施  
調査の時期、調査材料、調査員への指示などもできるだけ変更しない

# 質問の領域

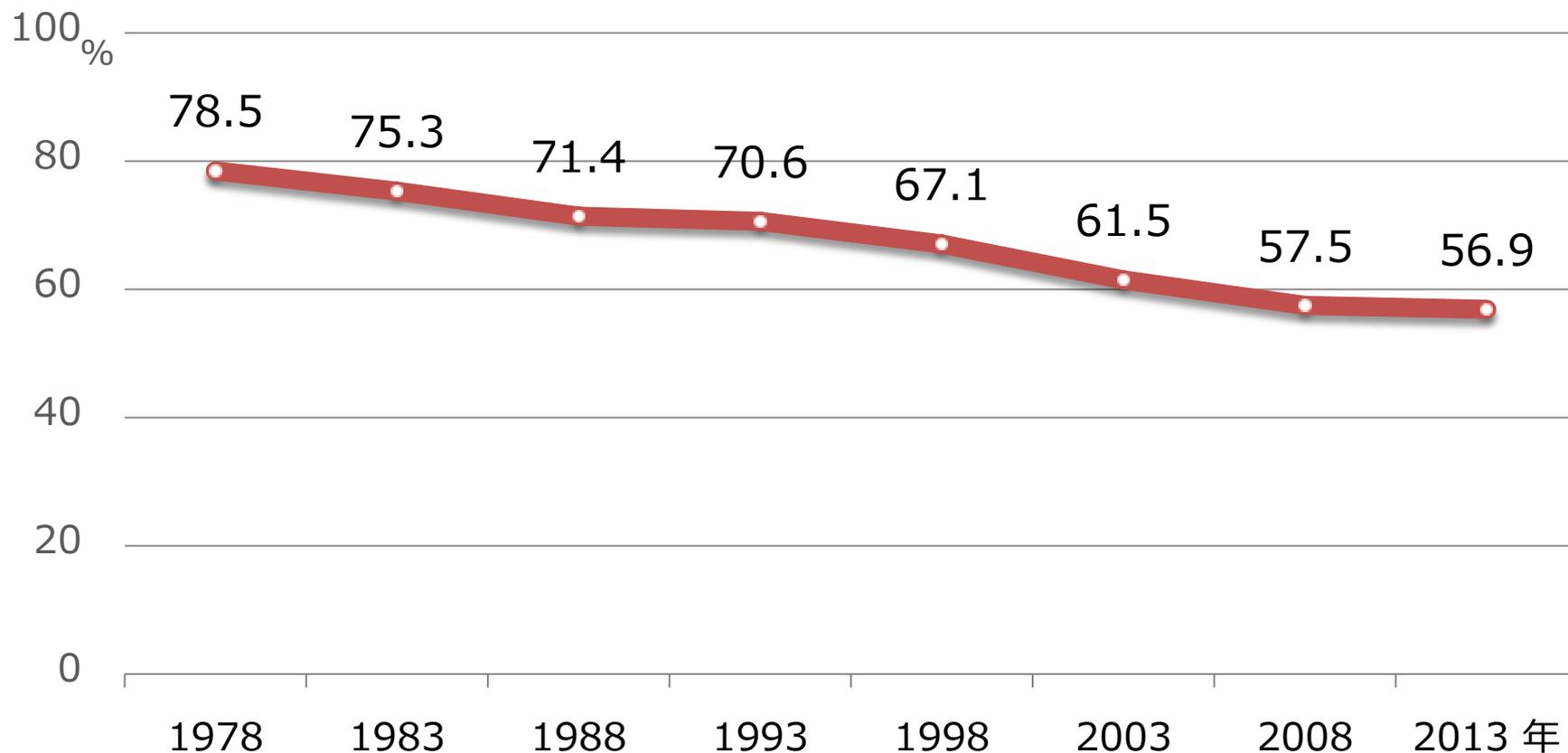


69問（うち第1回から継続が54問）

# 調査の概要

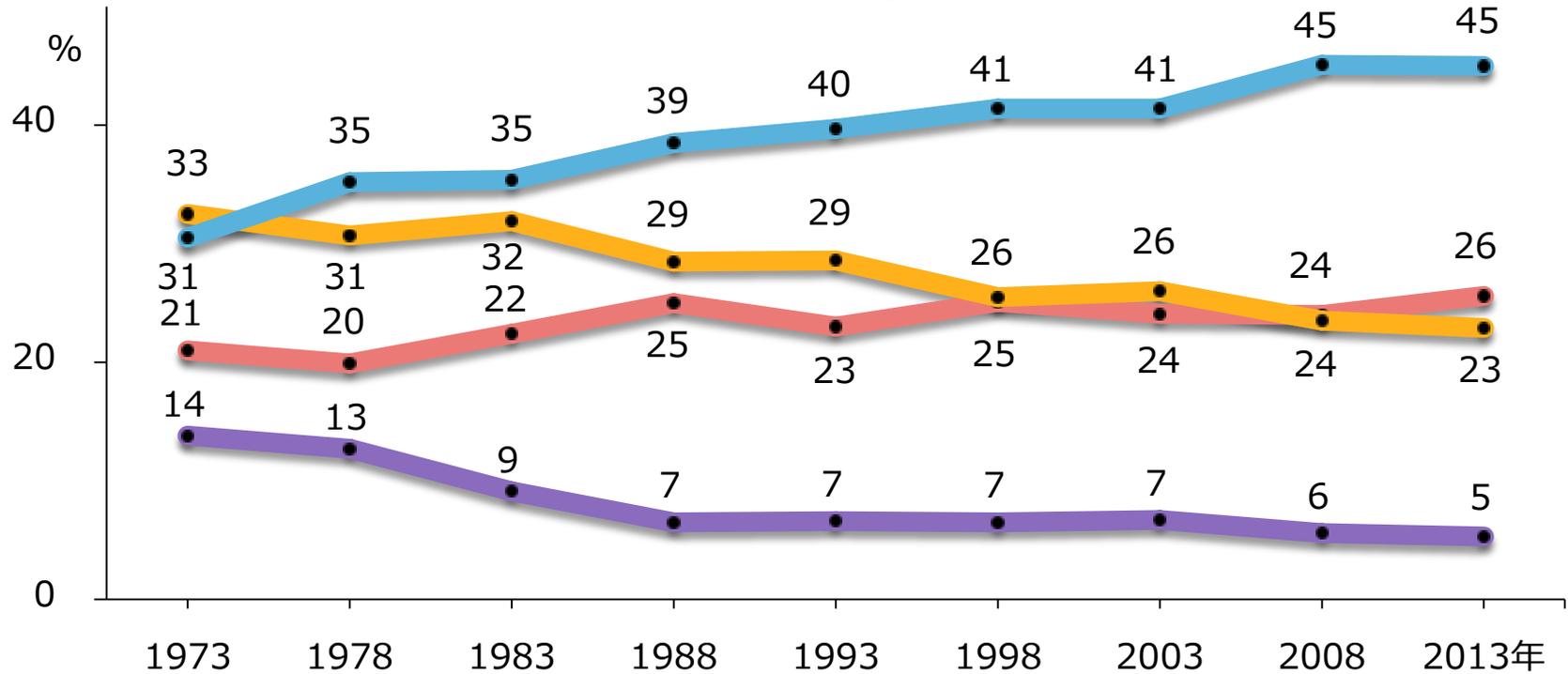
- 調査方法 個人面接法
- 調査対象 全国16歳以上の国民
- 調査相手 5,400人（450地点×12人）  
住民基本台帳から層化無作為二段抽出
  
- 第9回調査は、2013年10月19・20日に実施  
回収数 3,070（回収率 56.9%）

# 回収率の推移



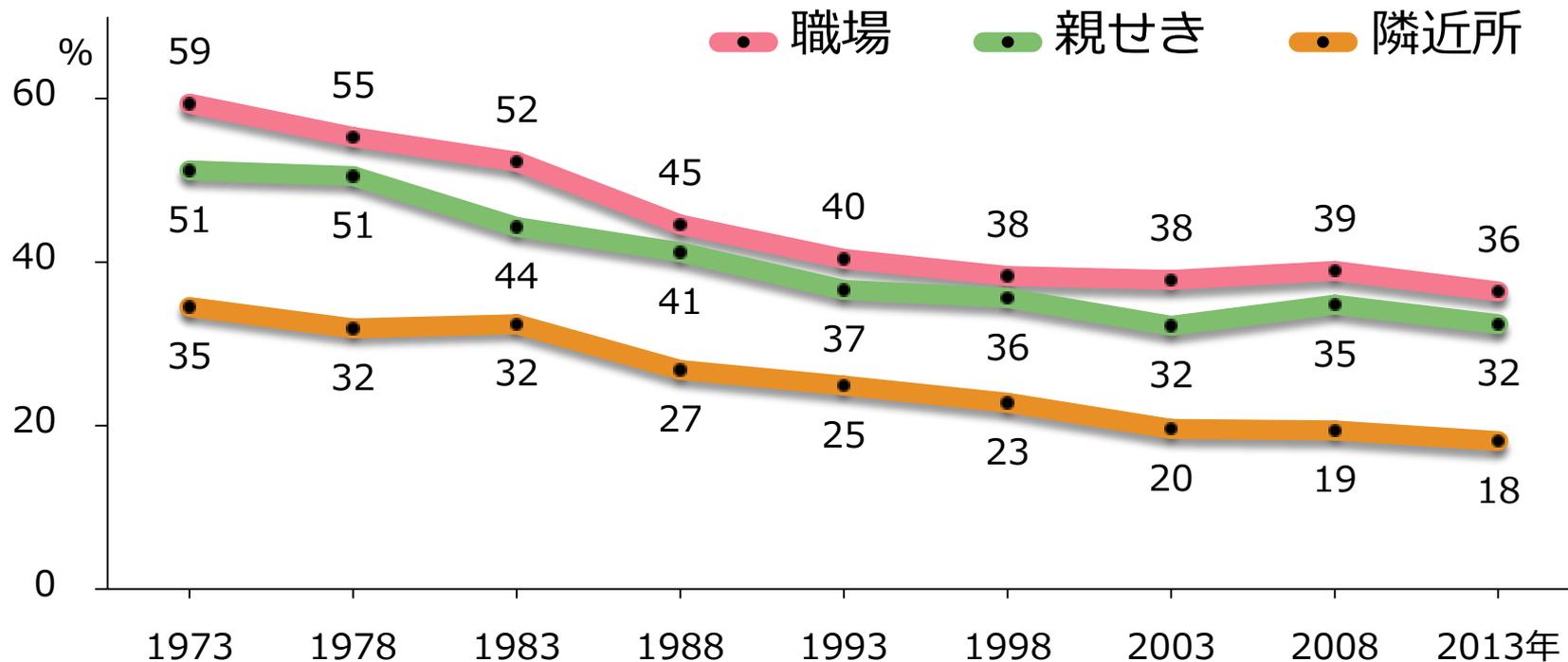
# 生活目標

- その日その日を、自由に楽しく過ごす
- しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く
- 身近な人たちと、なごやかな毎日を送る
- みんなと力を合わせて、世の中をよくする



# 人間関係（全般的つきあい）

なにかにつけ相談したり、たすけ合えるようなつきあいを望む人がどの場面でも減少



# 40年で大きく増加した項目

家庭・男女関係の領域で大きな変化

質問	選択肢	1973年	2013年	変化量
夫の家事手伝い	するのは当然	53%	89	36
家庭と女性の職業	両立	20	56	36
女子の教育	大学まで	22	57	35
地域の環境に満足	そう思う	60	87	27
婚前交渉	愛情で可	19	46	27
理想の家庭	家庭内協力	21	48	27
政治課題	経済の発展	11	37	26
衣食住に満足	そう思う	59	79	20

# 40年で大きく減少した項目

質問	選択肢	1973年	2013年	変化量
婚前交渉	不可	58%	21	-37
女子の教育	高校まで	42	12	-30
夫の家事手伝い	すべきでない	38	8	-30
政治課題	福祉の向上	49	20	-29
地域の環境に満足	そうは思わない	37	11	-26
家庭と女性の職業	家庭専念	35	11	-24
理想の家庭	性役割分担	39	15	-24
人間関係（職場）	全面的つきあい	59	36	-23
地域の公害問題	活動	36	16	-20

# 個人の意見と国民全体での分布の関係

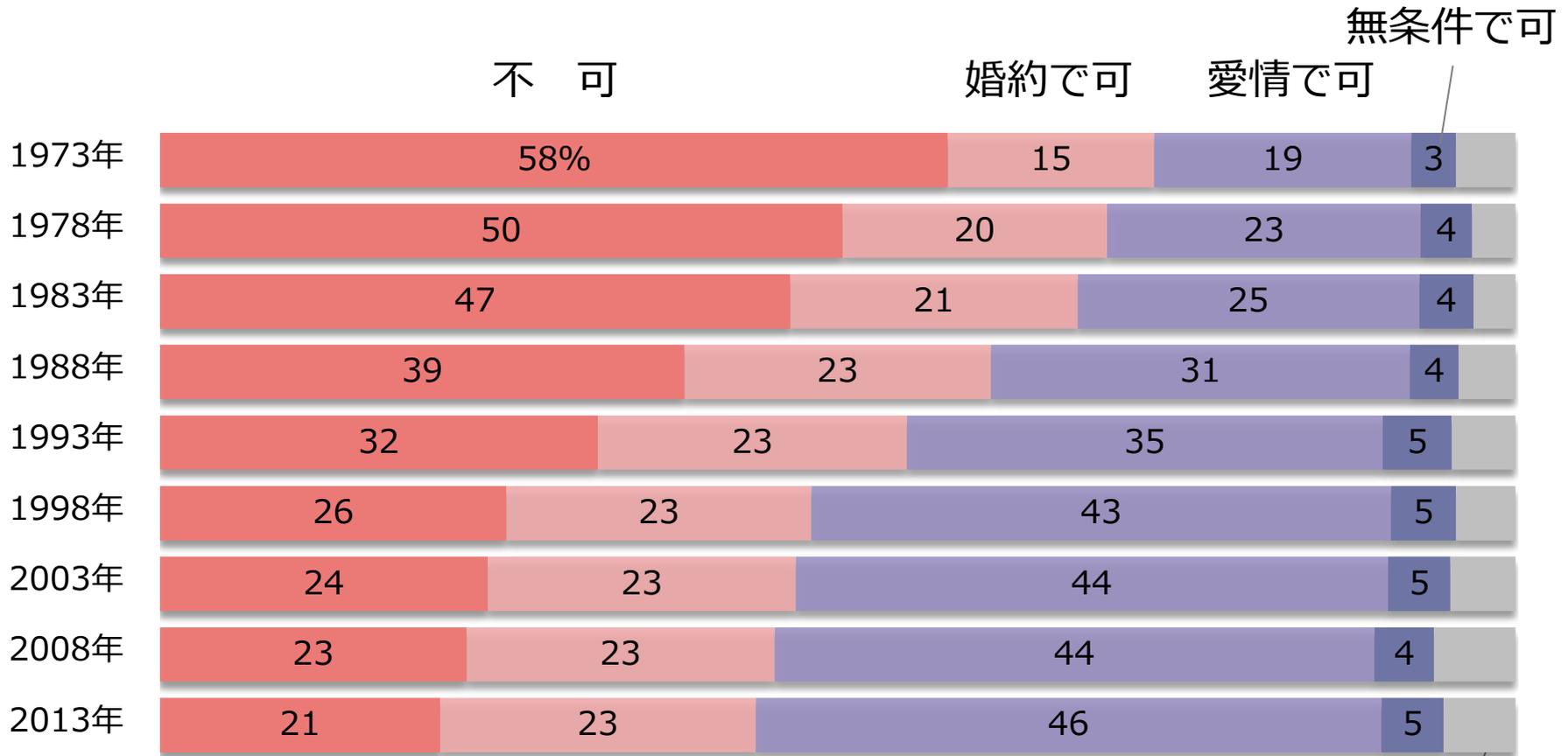
- ① 個々人は意見を変えても、国民全体での分布が変わらない
  - 個々人は年齢を重ねること（加齢）によって意見を変えても、各年齢の構成比が変わらなければ、国民全体での意見分布は変わらない
- ② 個々人は意見を変えなくても、国民全体での分布が変わる
  - 若い世代ほど支持する人が多いなど、世代間で差があれば、個々人は意見を変えなくても、世代交代により国民全体での意見分布は変化する
- ③ 個々人が意見を変え、国民全体の分布も変わる
  - それ以外に社会状況や経済状況の変化など、時代の動きによっても個々人の意見が変わることがある。この場合、国民全体での意見分布も変わることが多い

# 意識変化の要因

- ①年齢による変化（加齢要因）
- ②世代交代による変化（世代要因）
- ③時代が変わったことによる変化（時代要因）  
をみていく
- 実際にはこれらが複雑に絡み合っている

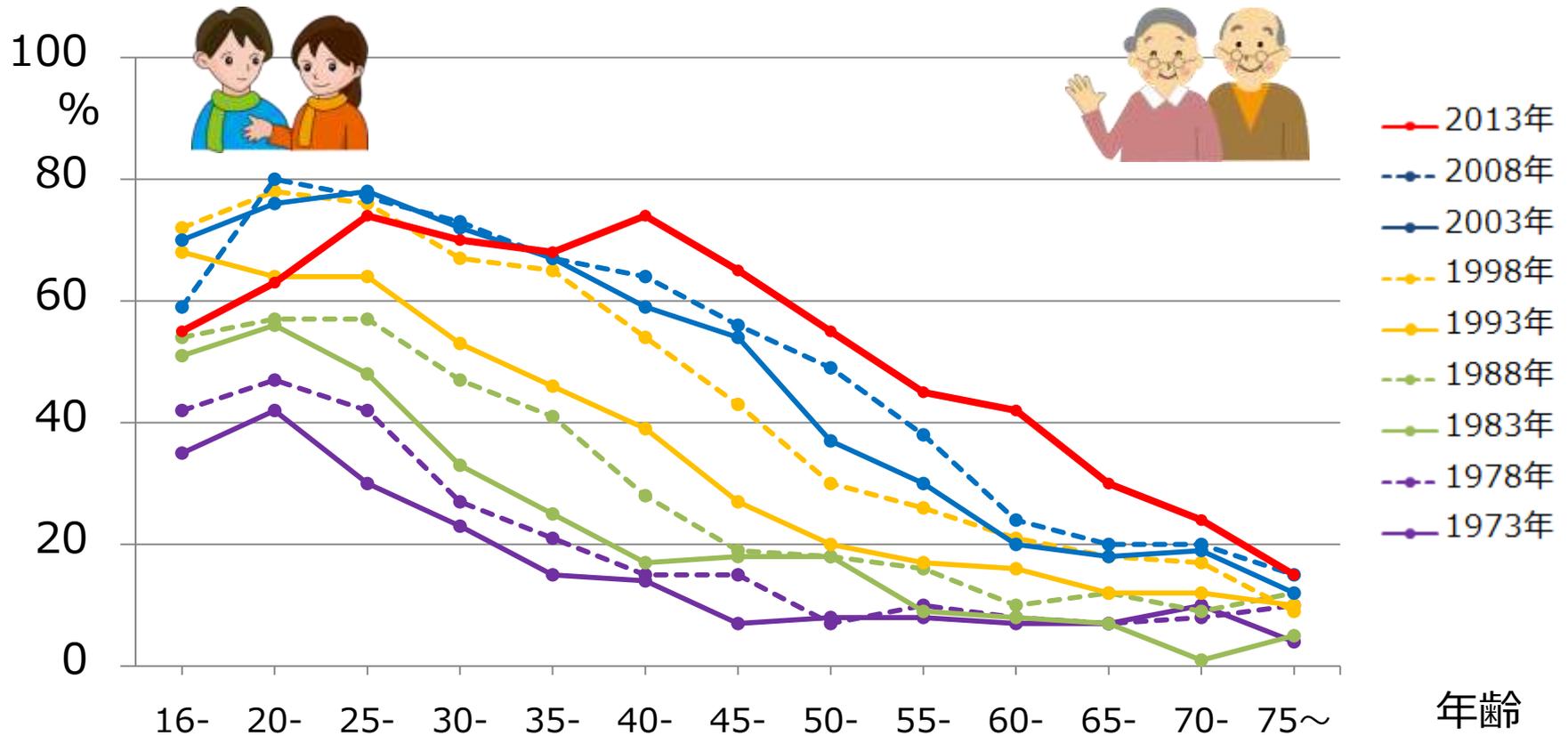
# 婚前交渉について

深く愛し合っていればよい（愛情で可）が増加



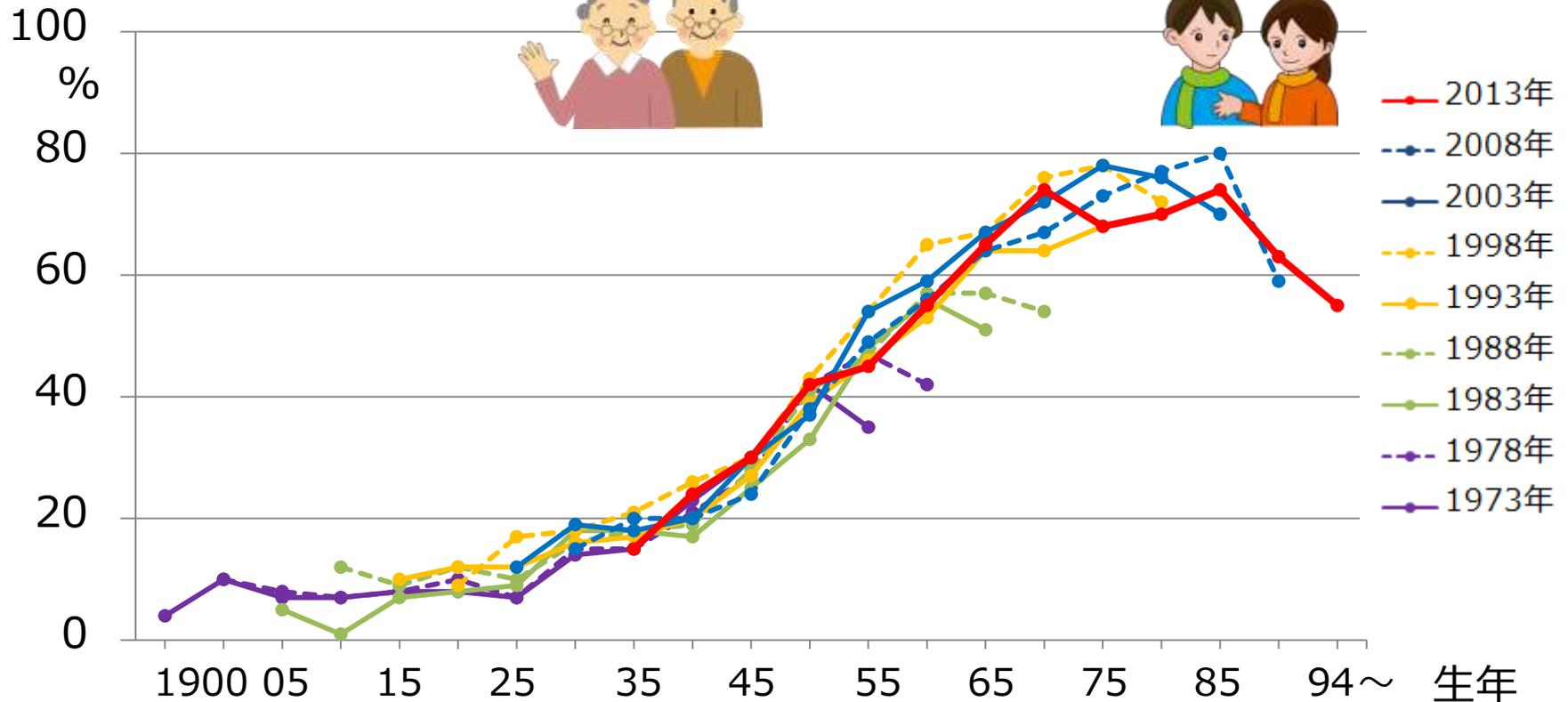
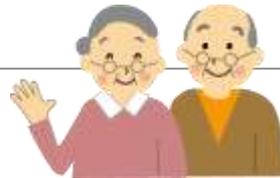
# 婚前交渉について

## 愛情で可（年齢層別）



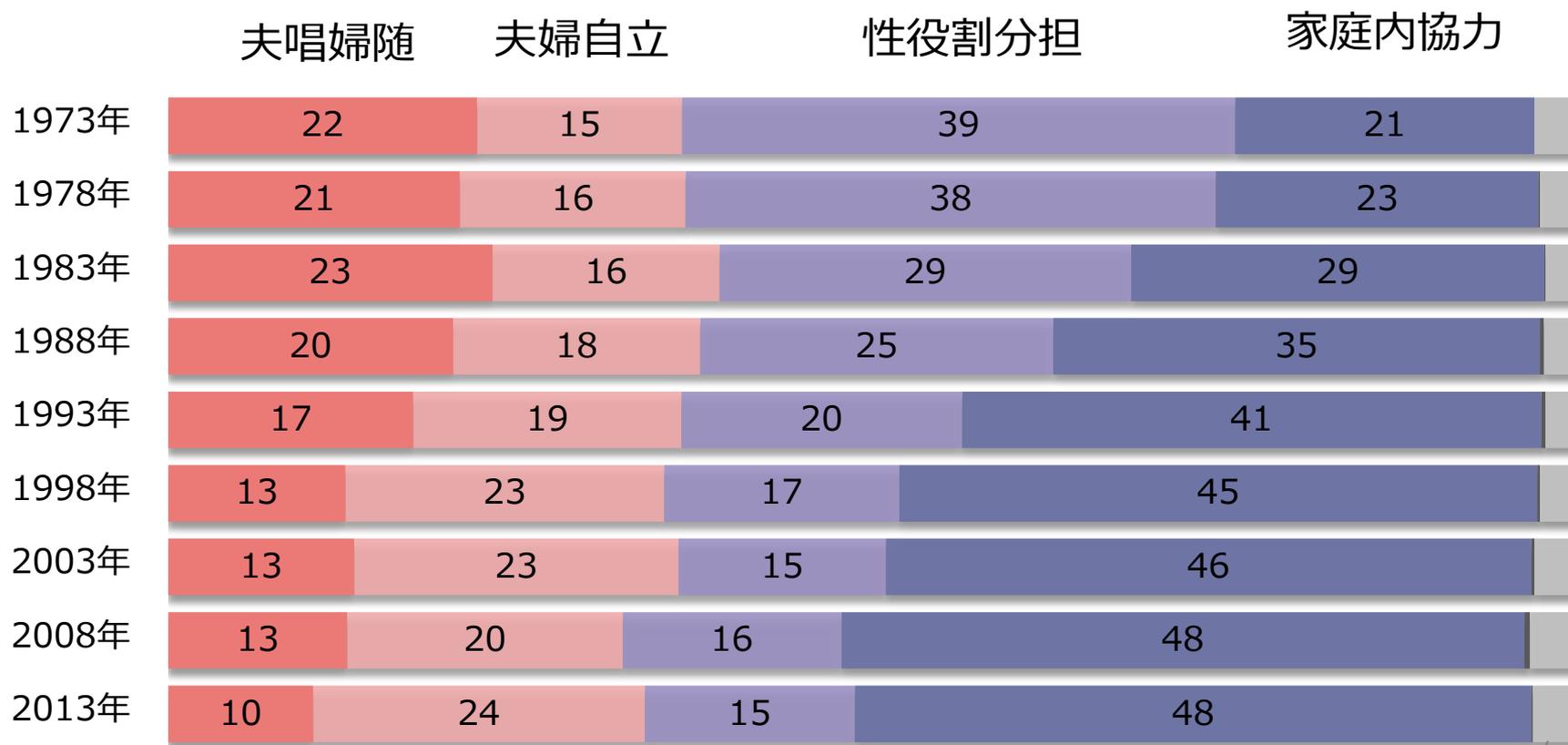
# 婚前交渉について

愛情で可（生年別） → 世代の影響



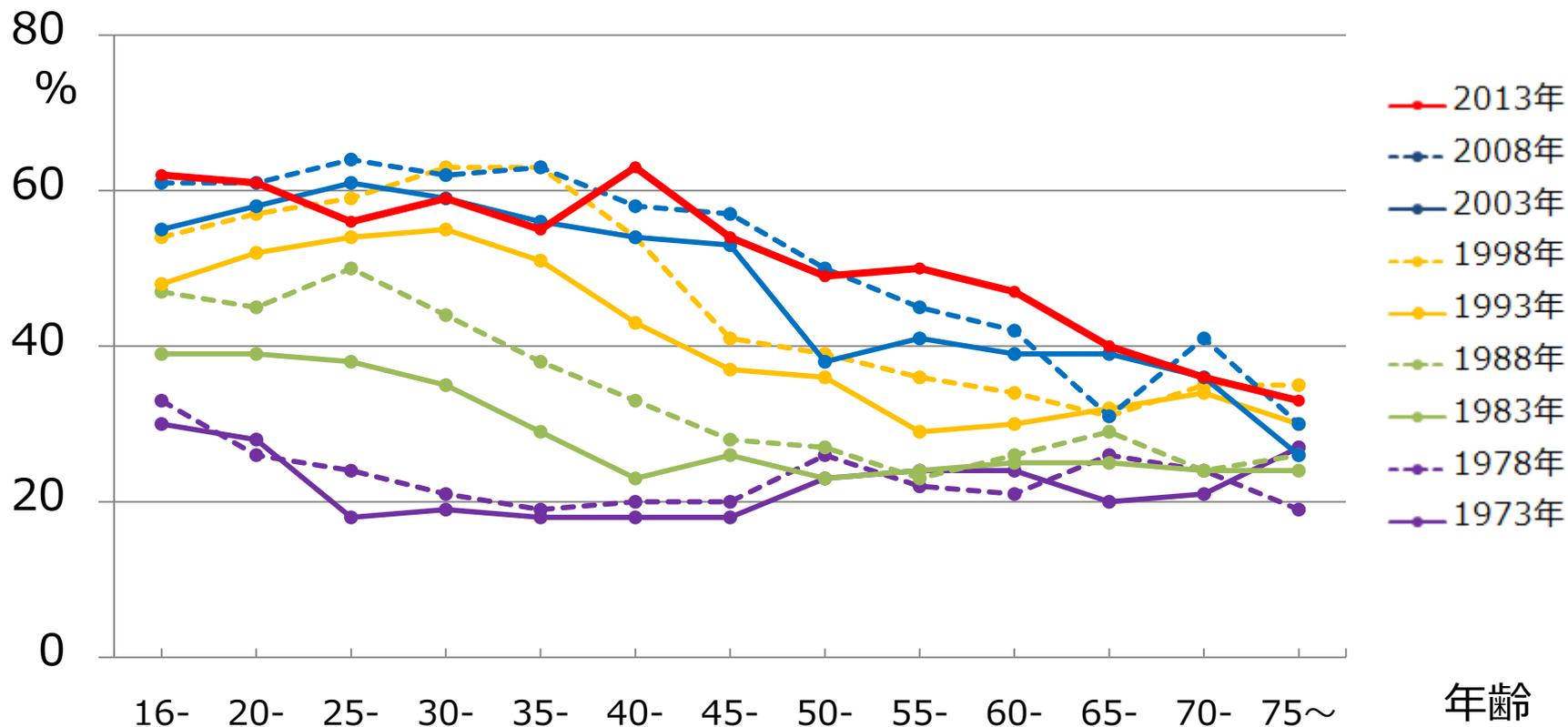
# 理想の家庭

## 家庭内協力が半数近くに



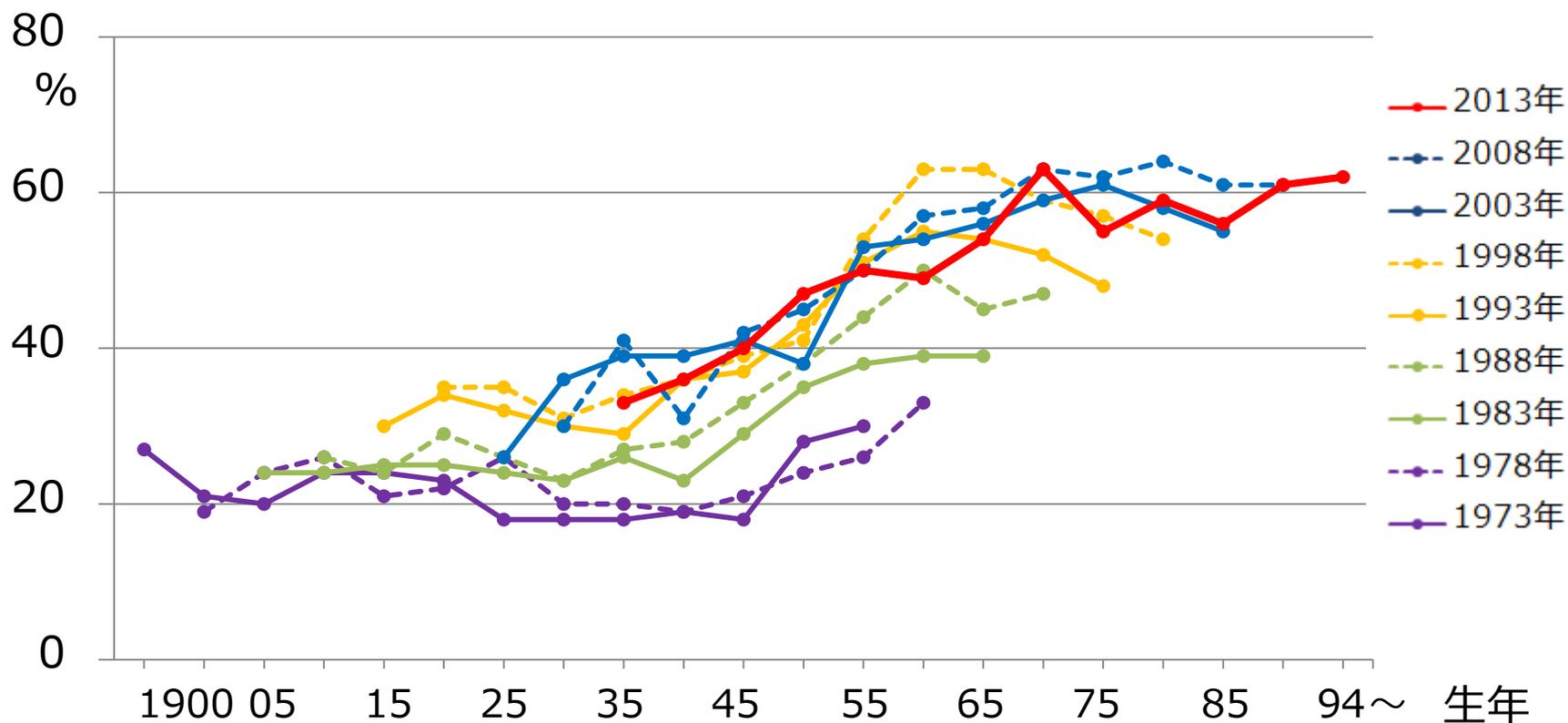
# 理想の家庭

## 家庭内協力 (年齢層別)



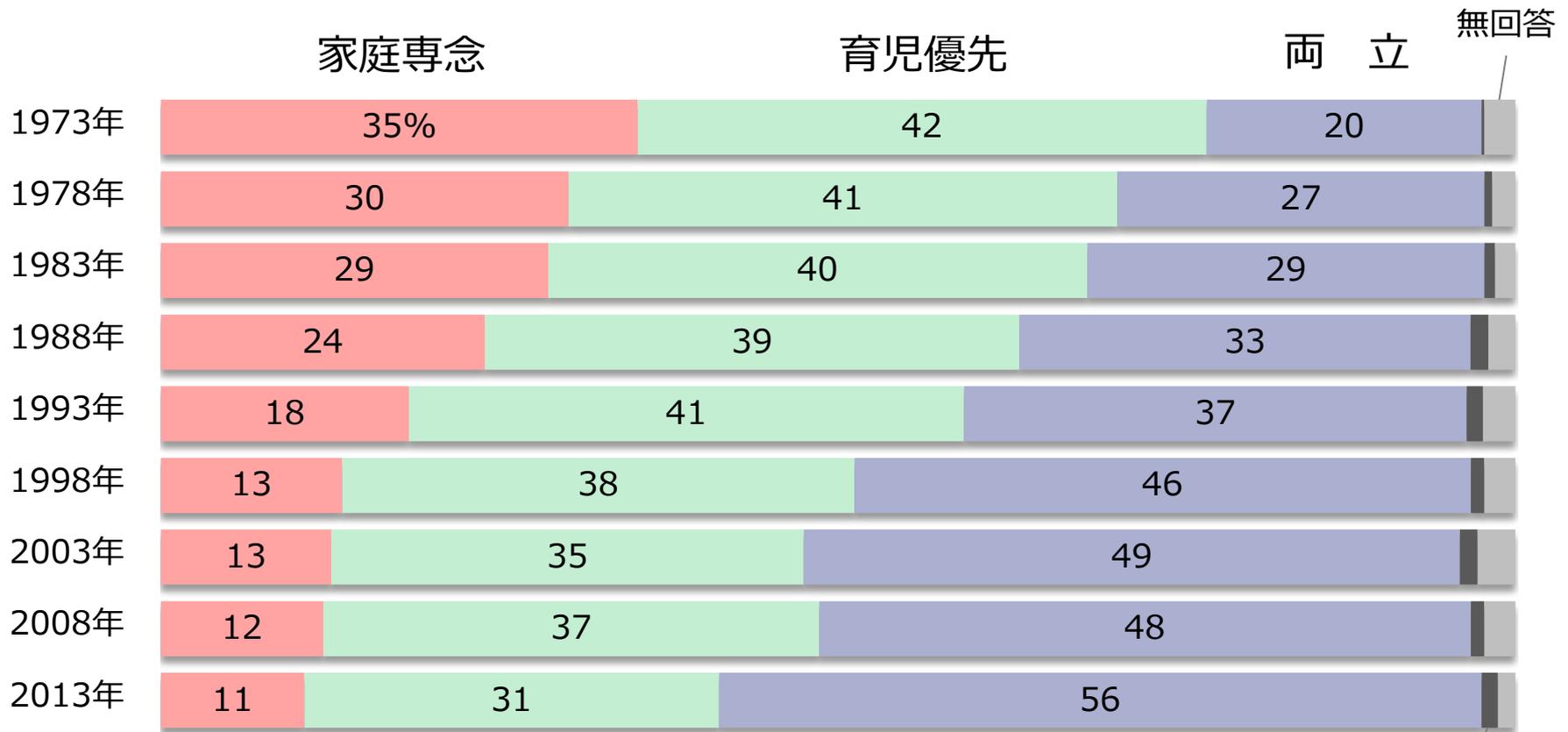
# 理想の家庭

## 家庭内協力（生年別）



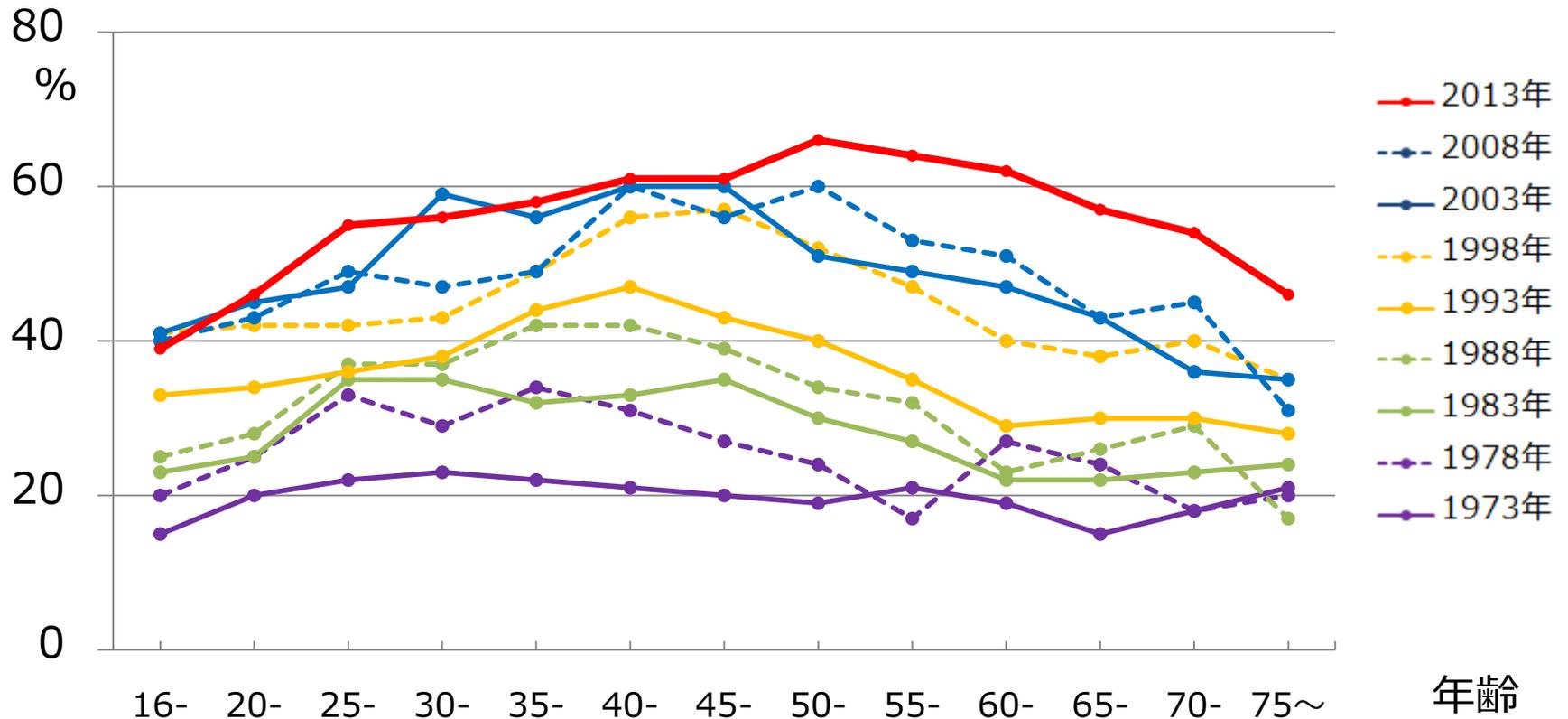
# 家庭と女性の職業

両立 = 出産後も仕事をもち続ける 過半数に



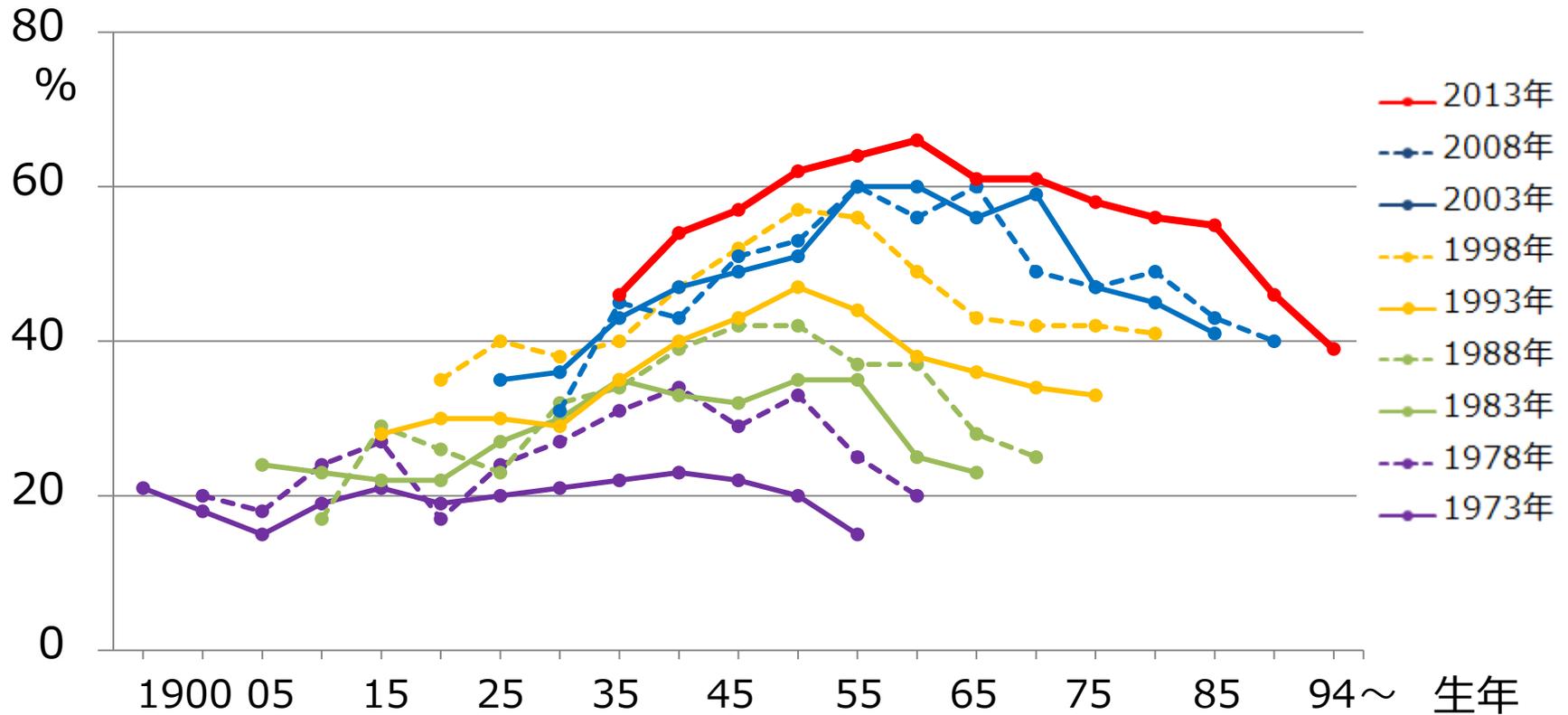
# 家庭と女性の職業

## 両立（年齢層別）



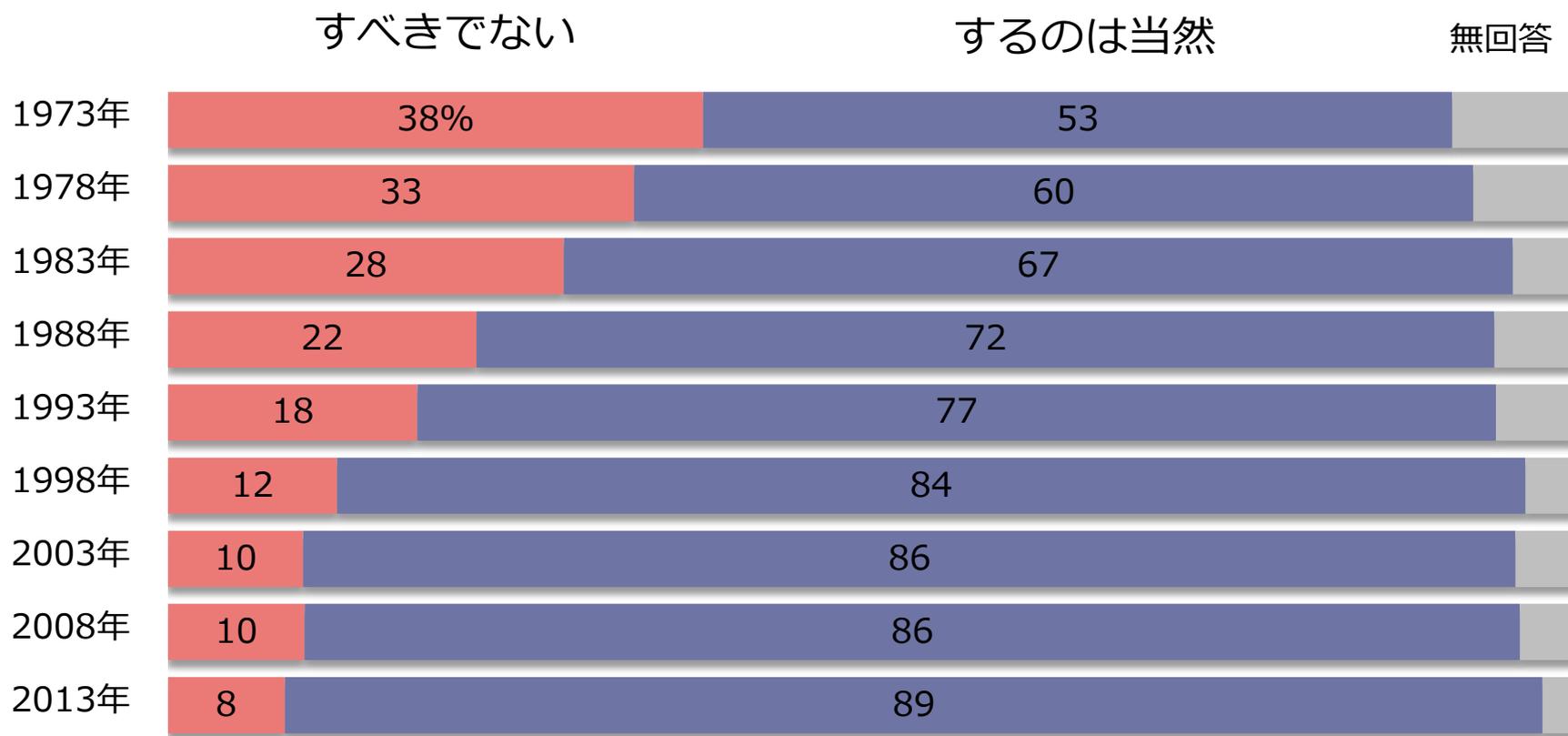
# 家庭と女性の職業

## 両立（生年別）



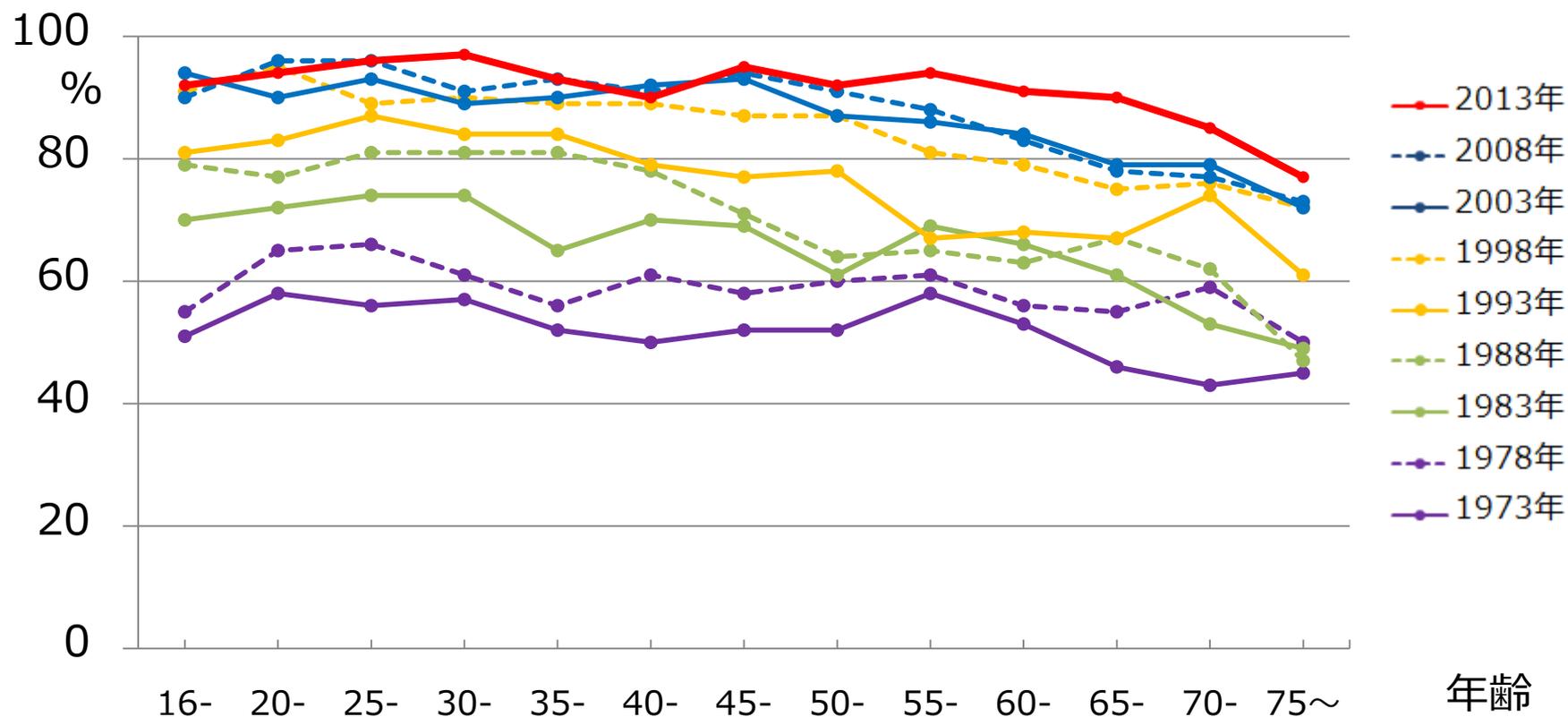
# 夫の家事の手伝い

「するのは当然」という意識が定着



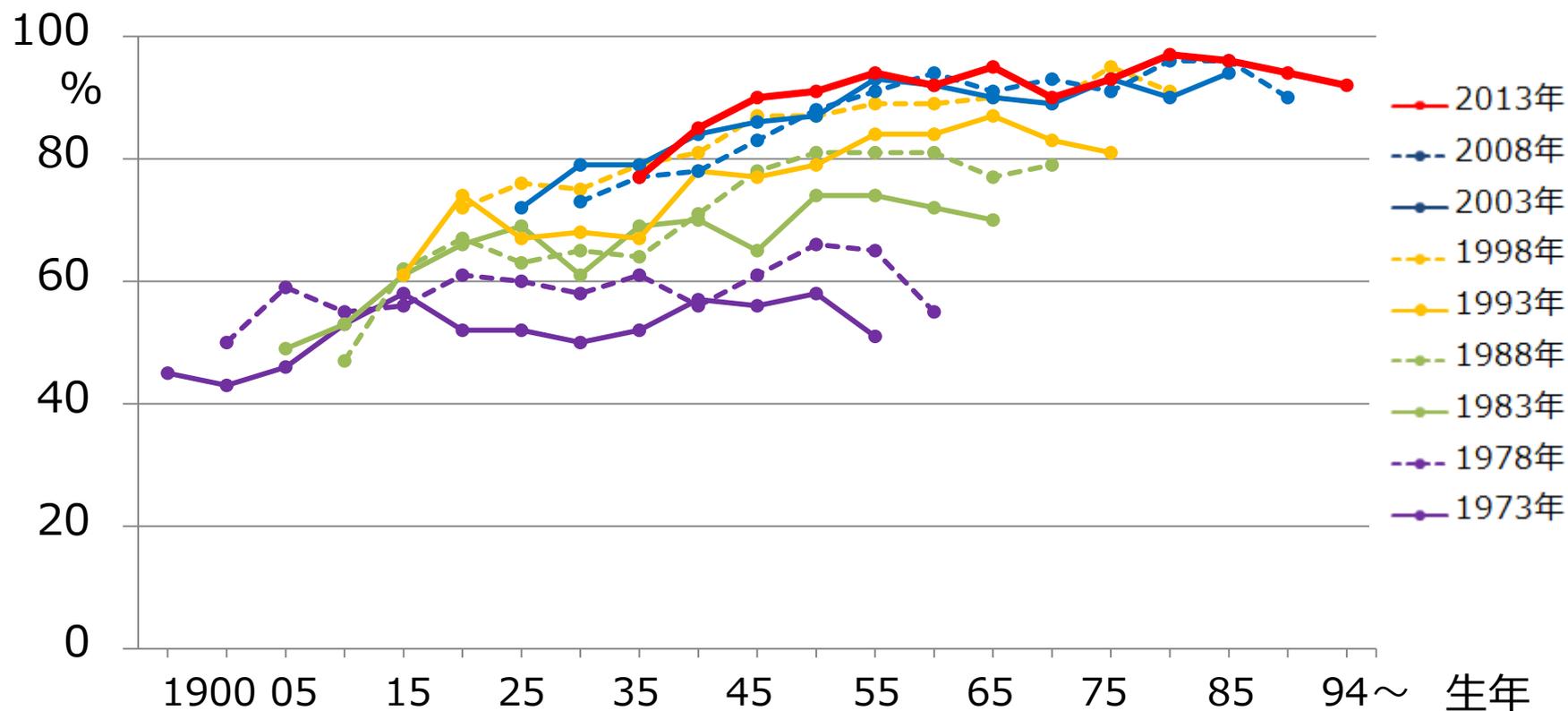
# 夫の家事の手伝い

するのは当然（年齢層別）



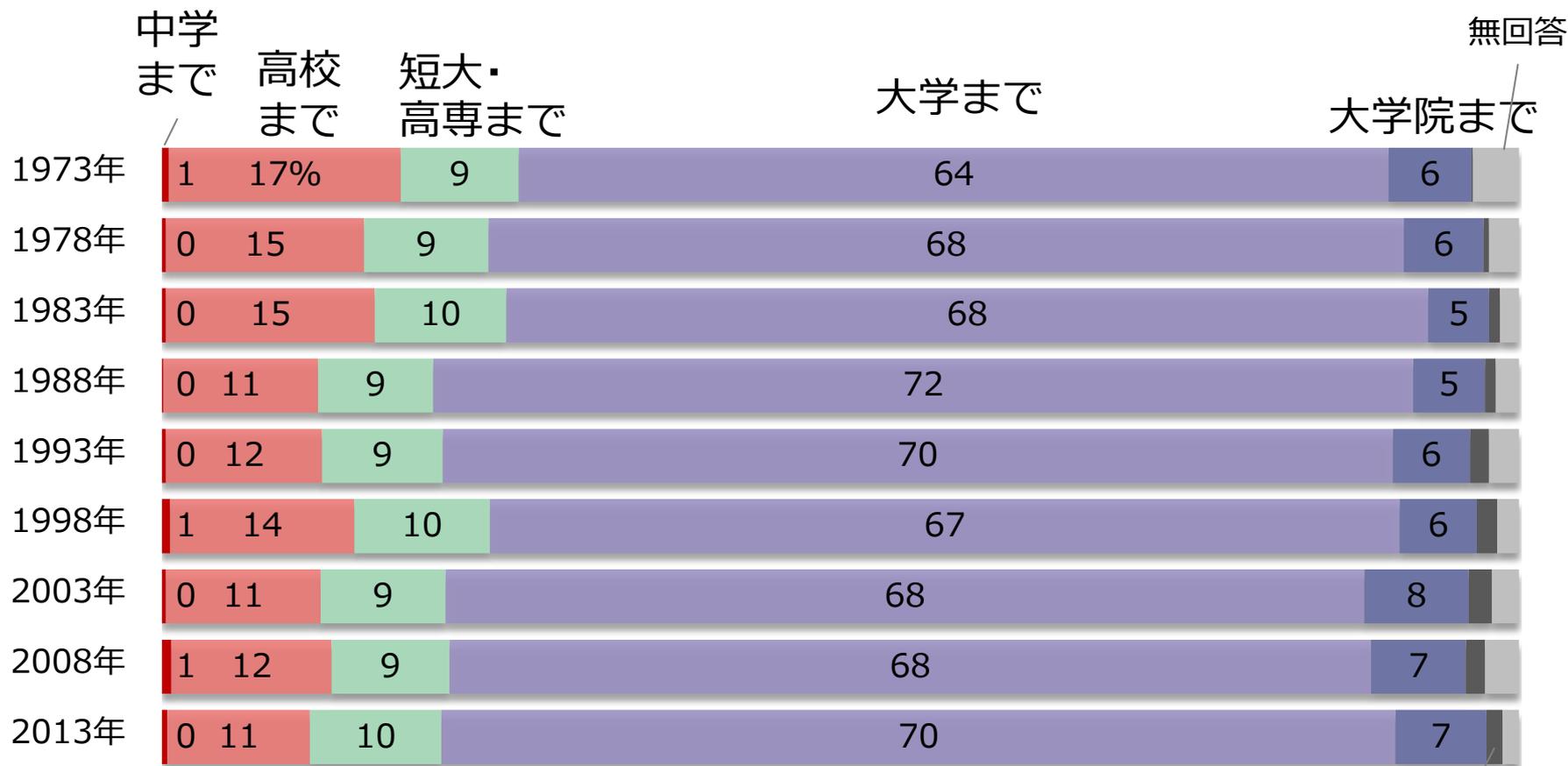
# 夫の家事の手伝い

するのは当然（生年別）



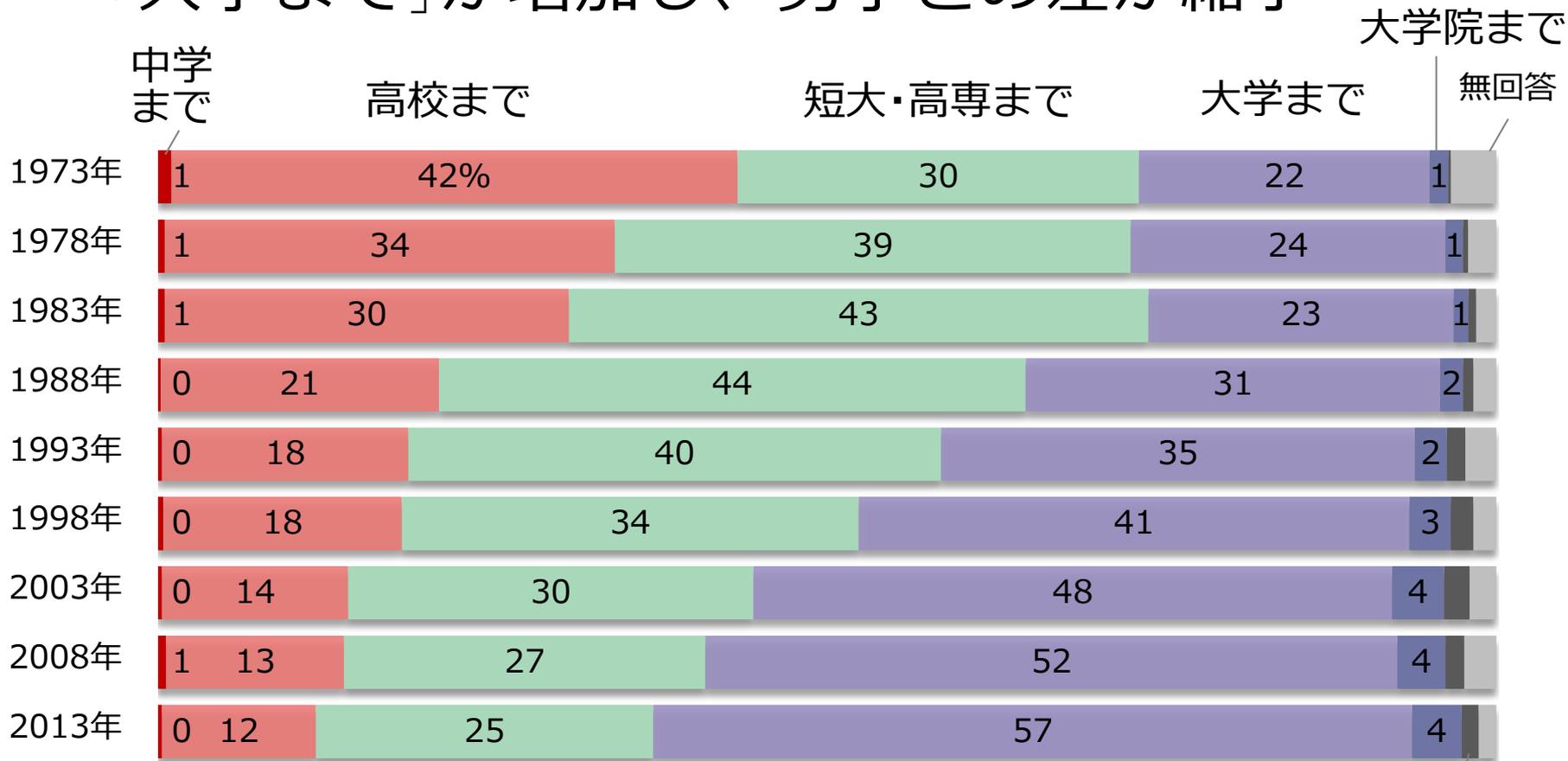
# 男子の教育

どの程度まで教育を受けさせたいか



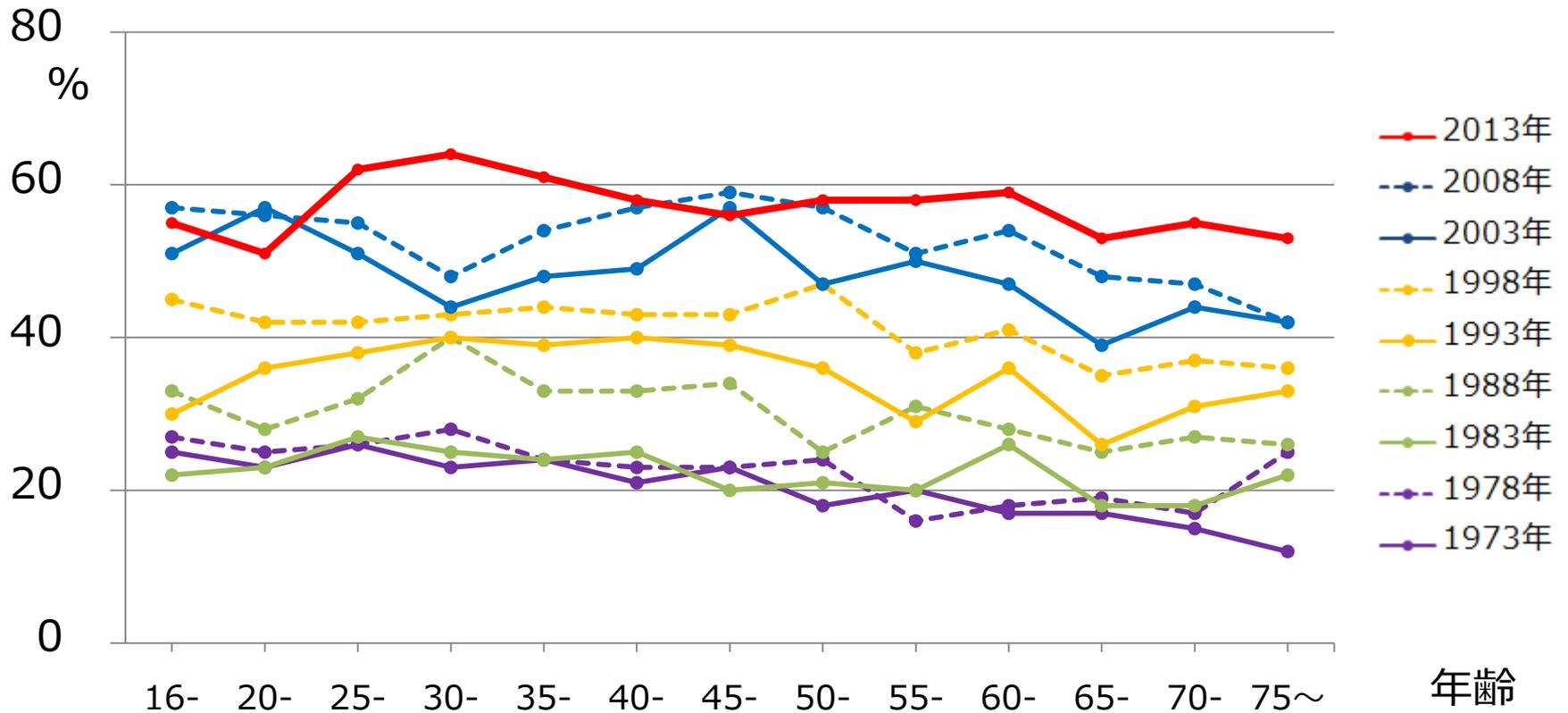
# 女子の教育

「大学まで」が増加し、男子との差が縮小



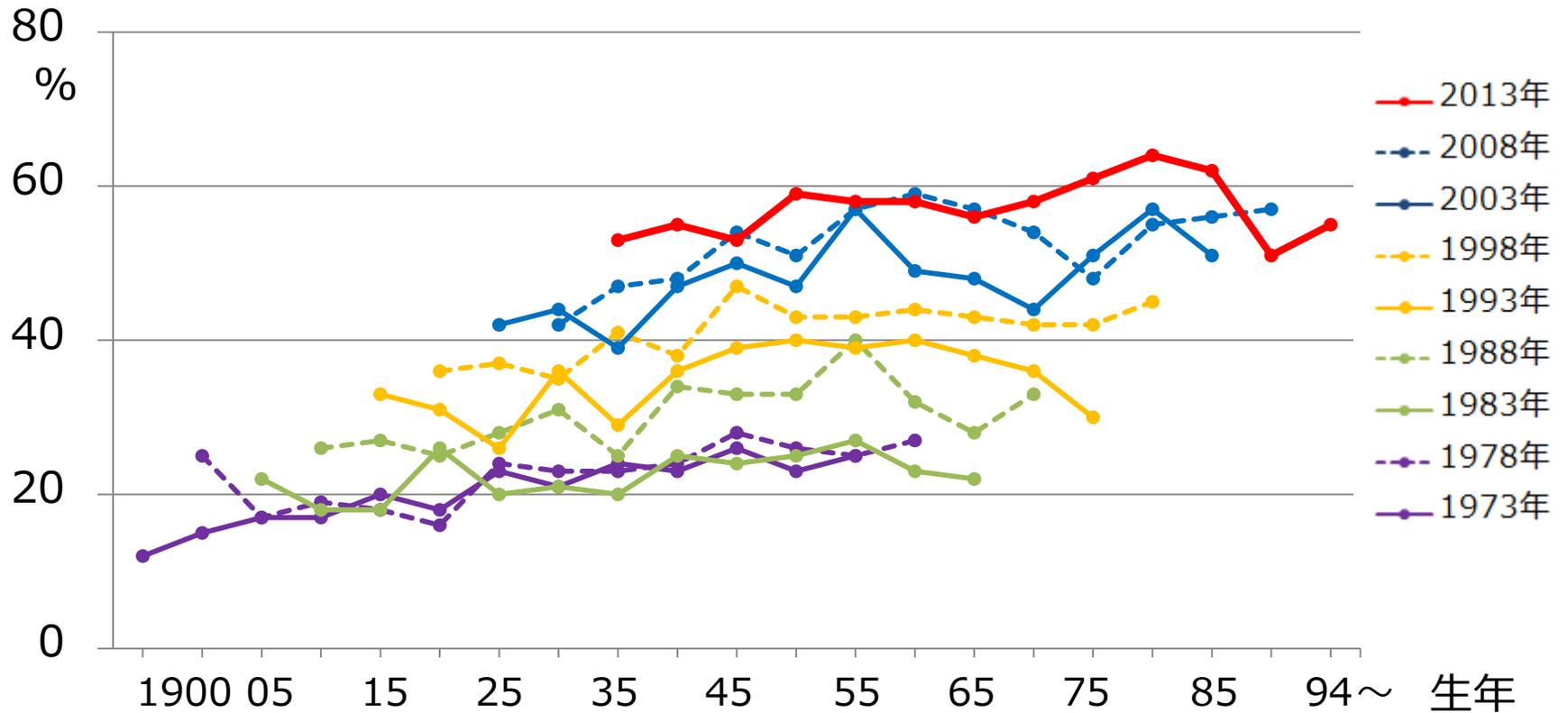
# 女子の教育

## 大学まで（年齢層別）



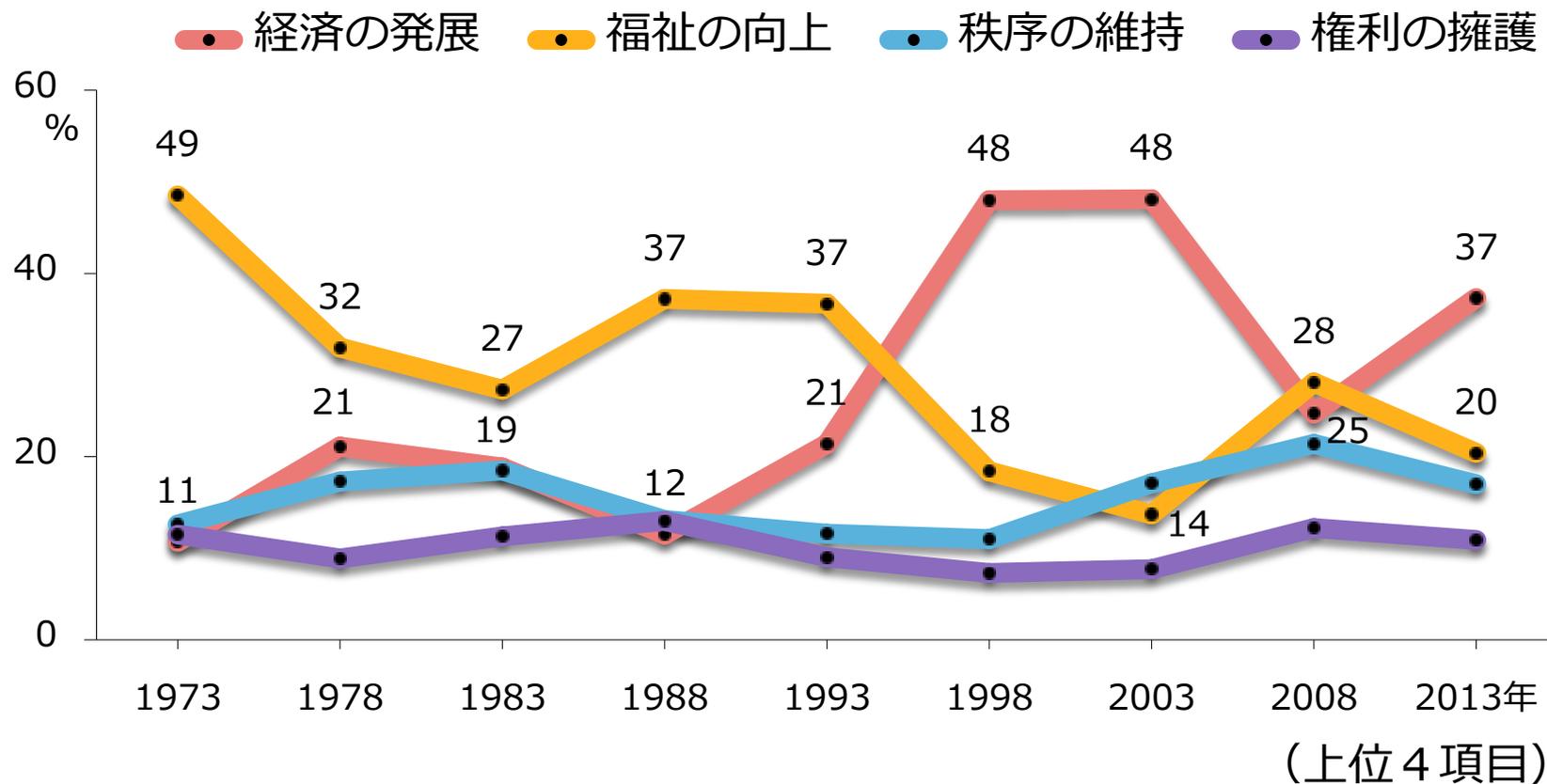
# 女子の教育

## 大学まで（生年別）



# 政治課題

## 経済発展と福祉が大きく変動

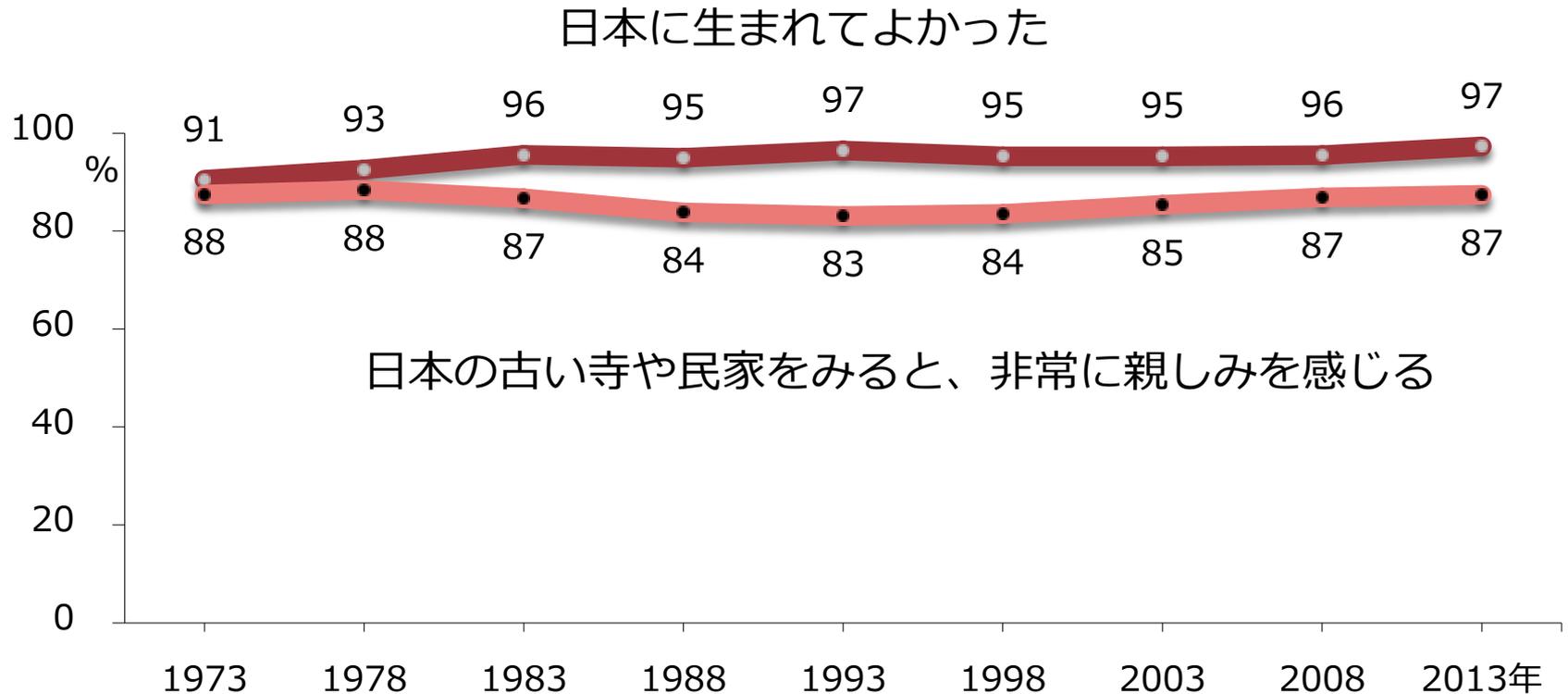


# 40年で変化の小さい項目

質問	選択肢	最大値	最小値	差
政治活動のあり方	静観	63%	59	4
生活全体の満足感	やや満足	61	57	4
年上の人へのことばづかい	敬語が当然	89	84	5
結婚式の仲人	2人をよく知る人	87	82	5
生活充実手段（健康な体）	1番目	78	73	5
能率・情緒（仕事の相手）	情緒	72	67	5
日本の古い寺や民家に親しみ	そう思う	88	83	5
人間関係に満足	そう思う	72	66	6
日本に生まれてよかった	そう思う	97	91	6
能率・情緒（旅行）	能率	63	56	7

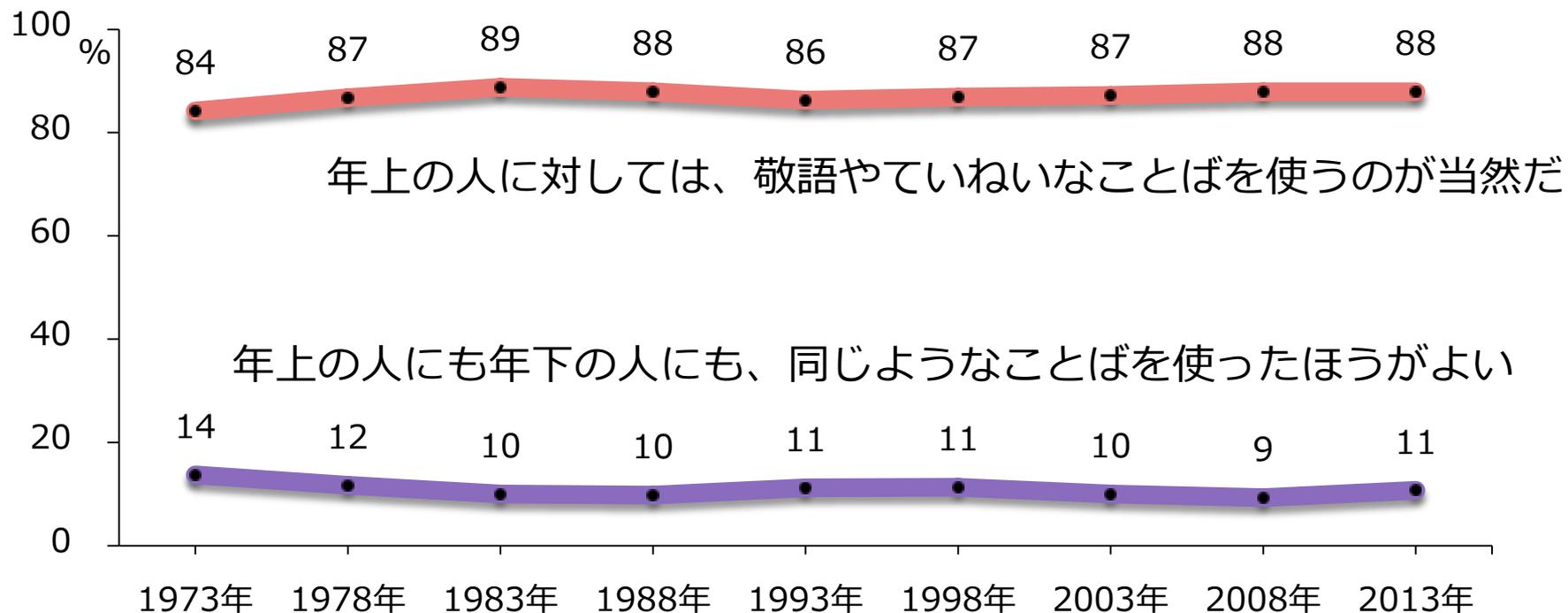
(最小値50%以上)

# 日本に対する愛着



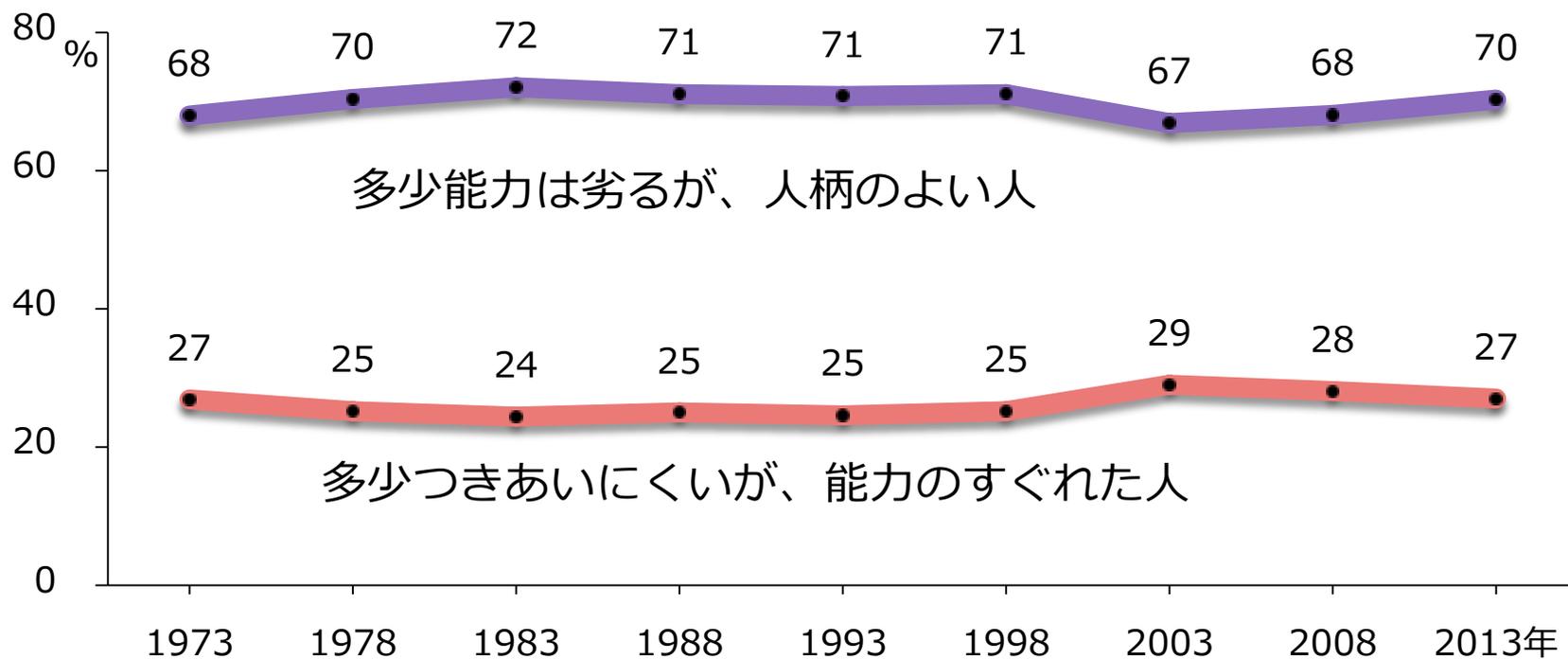
※「そう思う」の割合

# 年上の人に対する言葉づかい



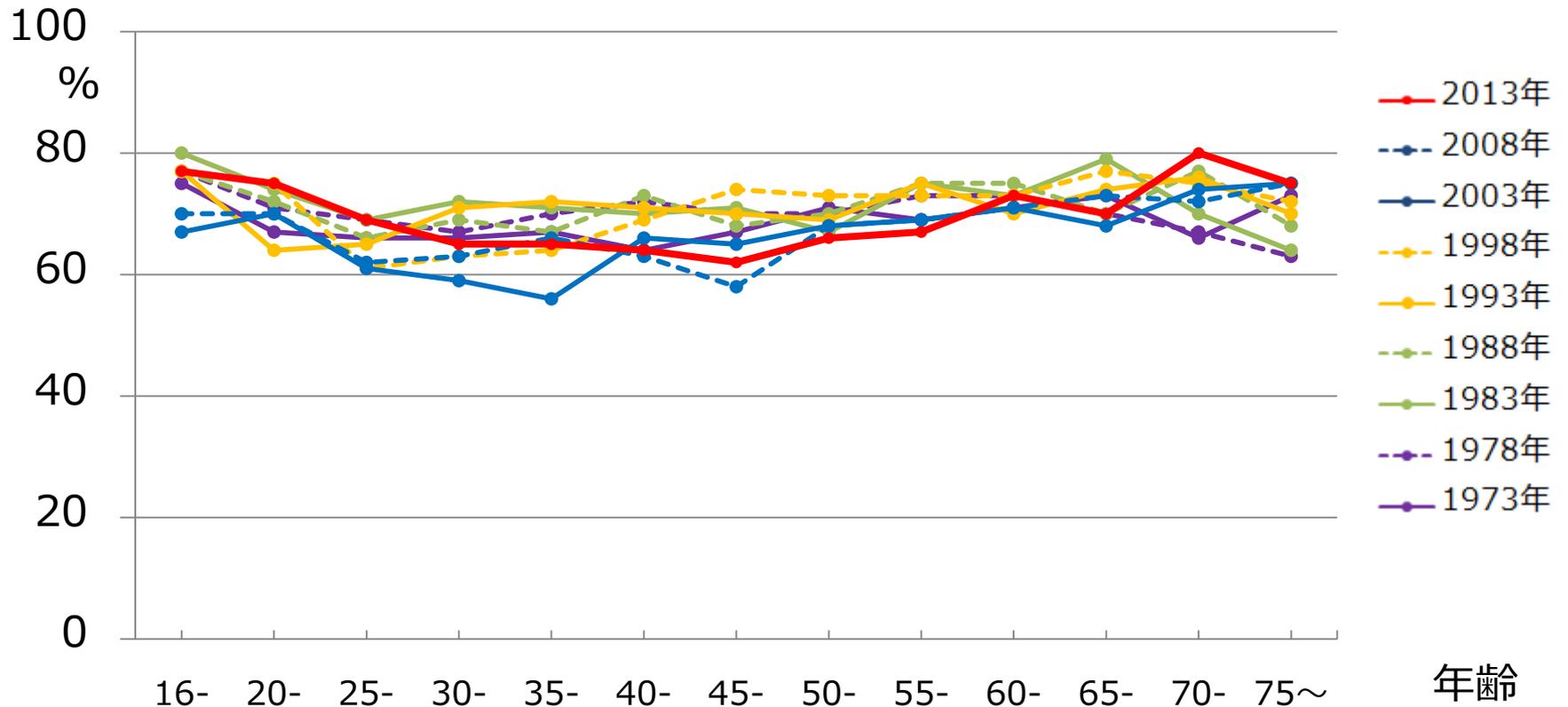
# 仕事の相手

一緒に仕事をするとしたら、どちらの人を選びたいか



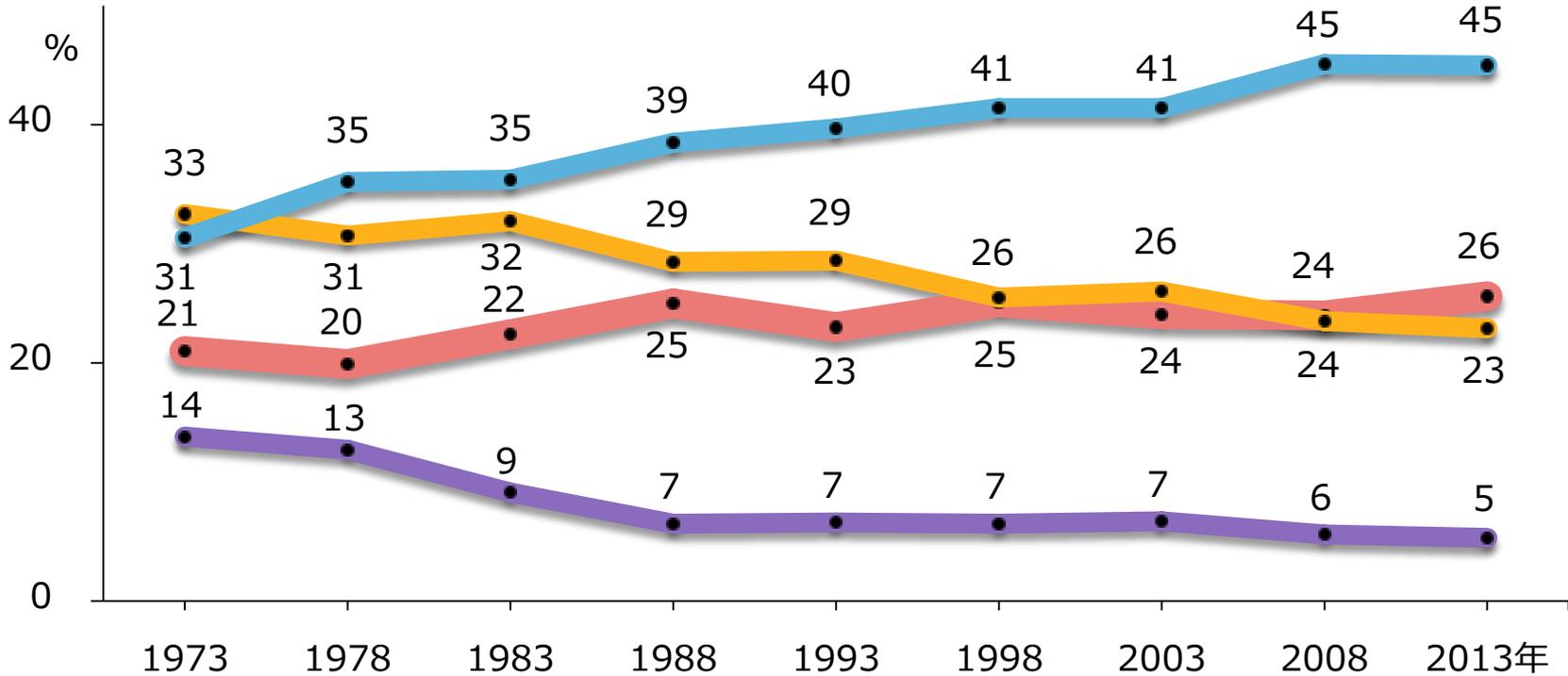
# 仕事の相手

多少能力は劣るが、人柄のよい人（年齢層別）



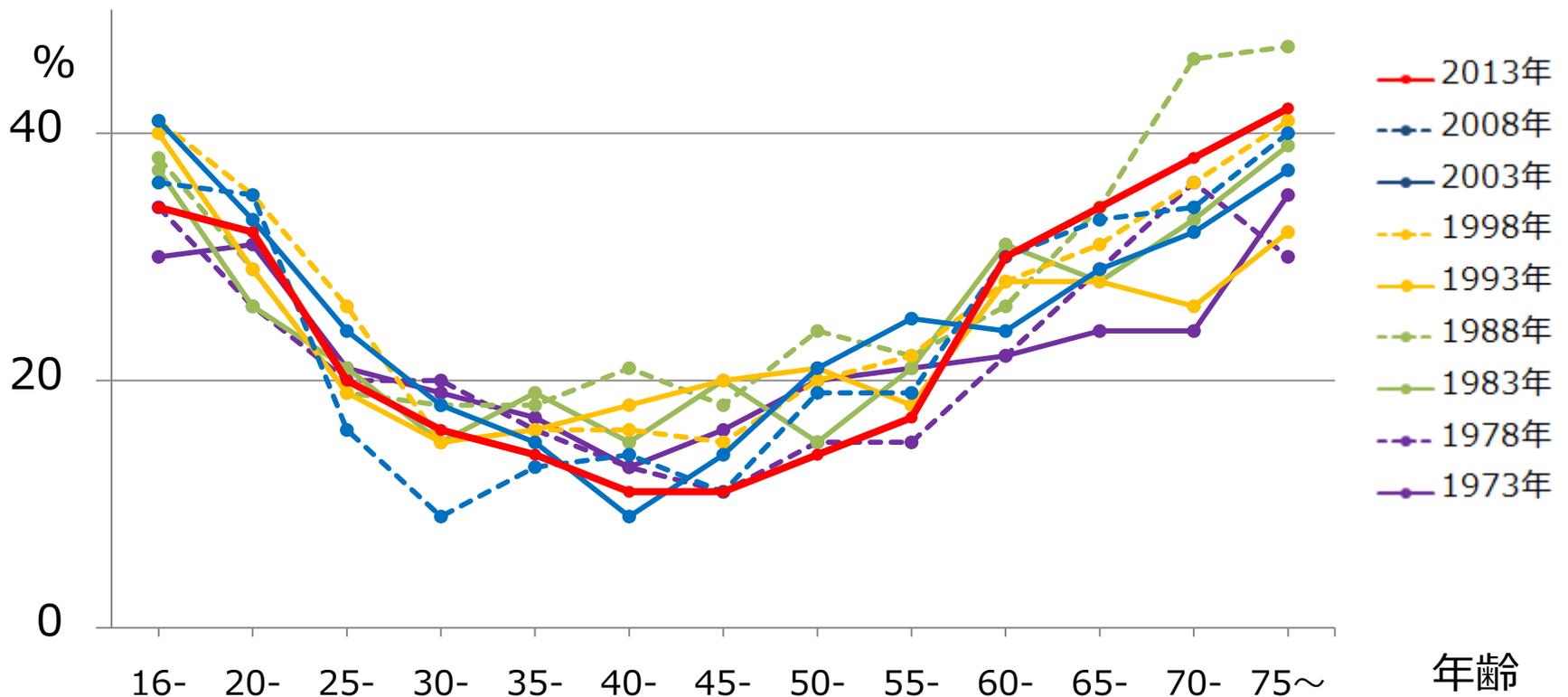
# 生活目標

- その日その日を、自由に楽しく過ごす
- しっかりと計画をたてて、豊かな生活を築く
- 身近な人たちと、なごやかな毎日を送る
- みんなと力を合わせて、世の中をよくする



# 生活目標

その日その日を、自由に楽しく過ごす（年齢層別）

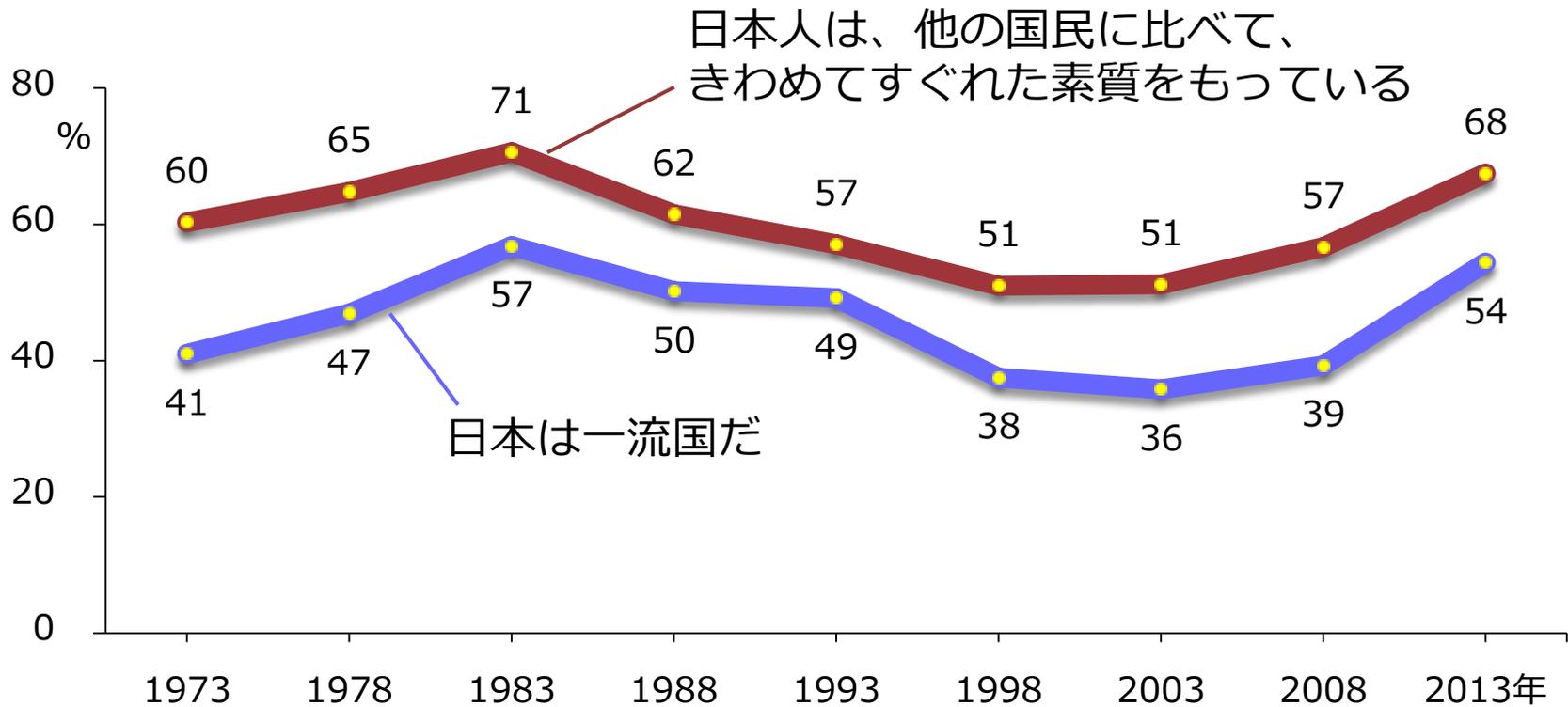


# 最近5年間の変化の特徴

- 国についての態度
  - 日本に対する自信が回復
  - 天皇に対する感情「尊敬」が増加
- 生活意識
  - 家庭と女性の職業「両立」が初めて過半数に
  - 生活満足感が上昇
- 限定的だった震災の影響
  - 全体的な傾向は大きな変化なし（結婚観、信仰など）
  - 変化の方向が変わった項目は少ない

# 日本に対する自信

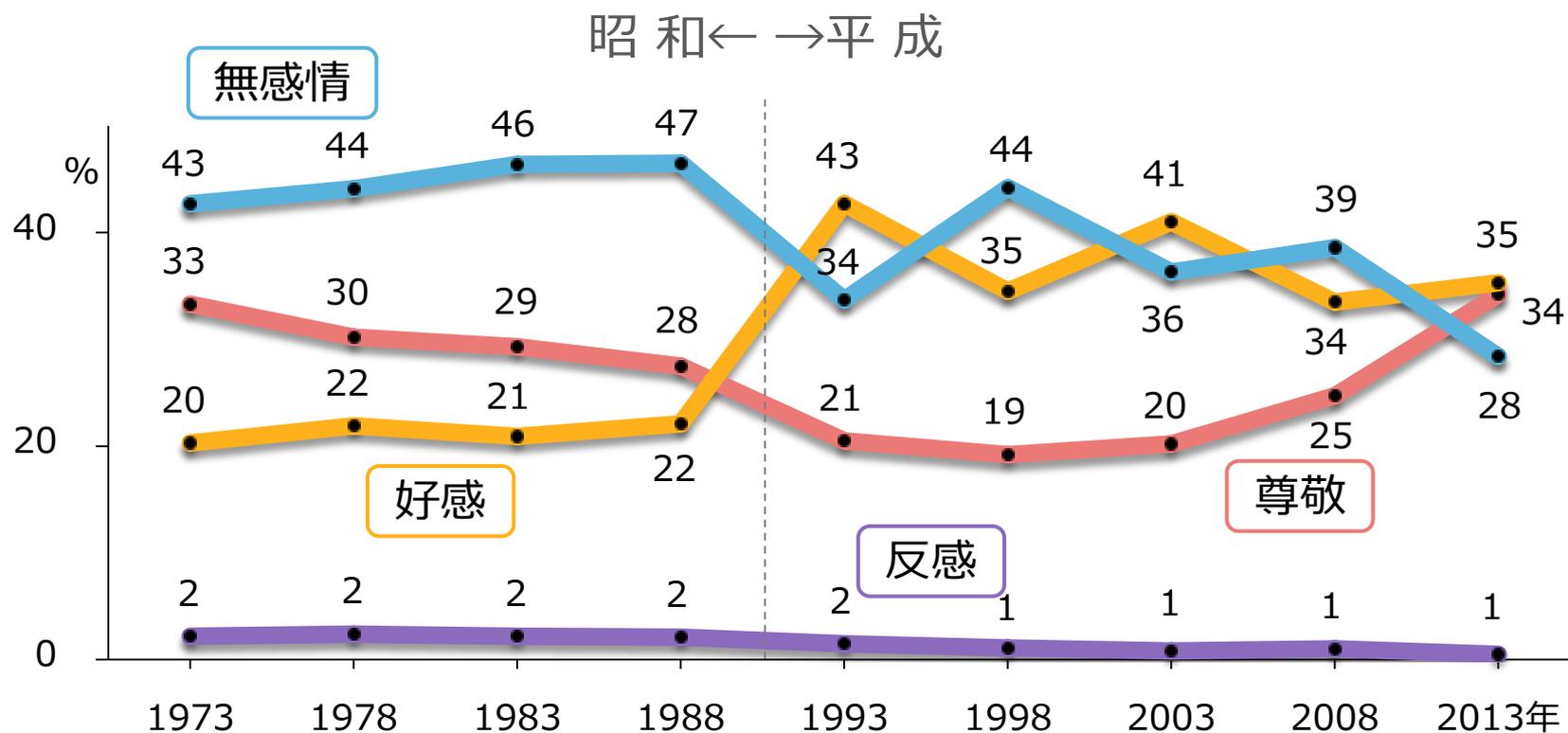
最も高かった83年に近い水準に



※「そう思う」の割合

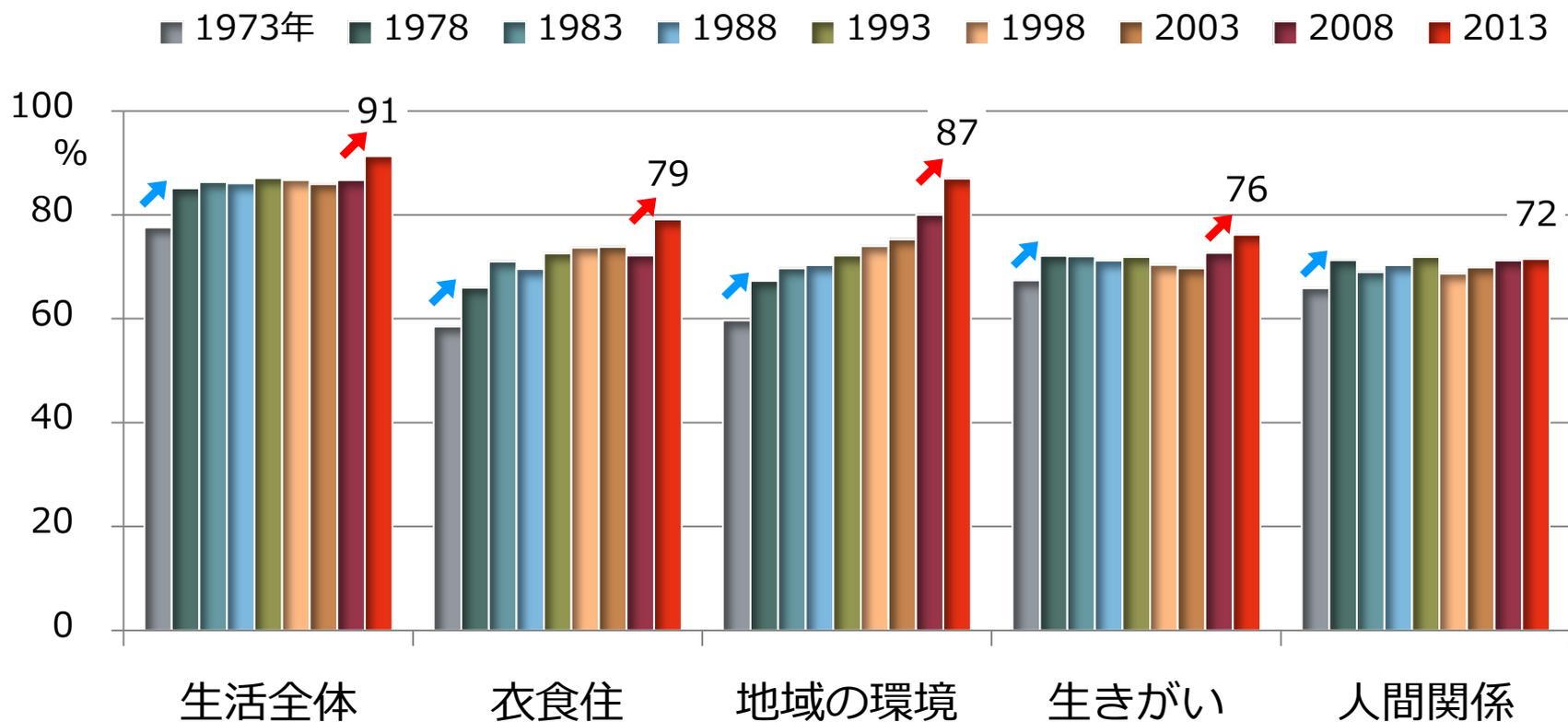
# 天皇に対する感情

## 尊敬が増加し73年に並ぶ



# 生活満足感

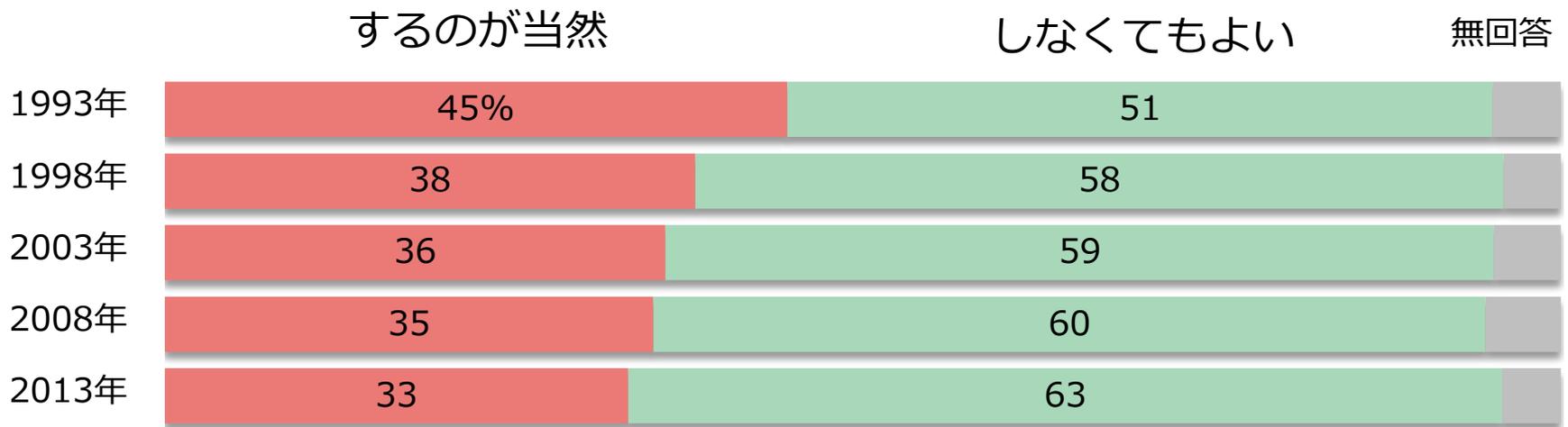
## 人間関係以外の満足感が上昇



# 結婚観

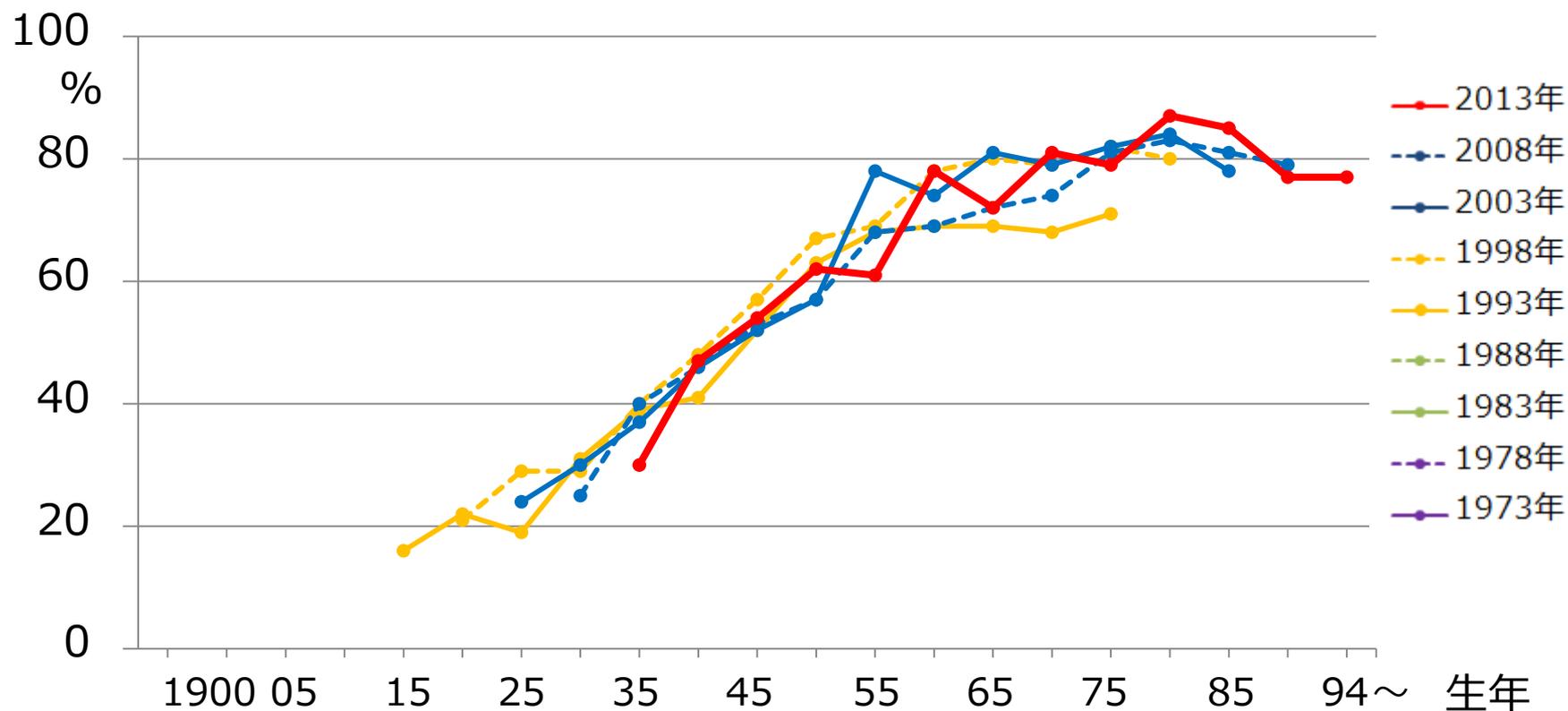
結婚すべきという人が増える？

→ 「必ずしも結婚する必要はない」がさらに増加



# 結婚観

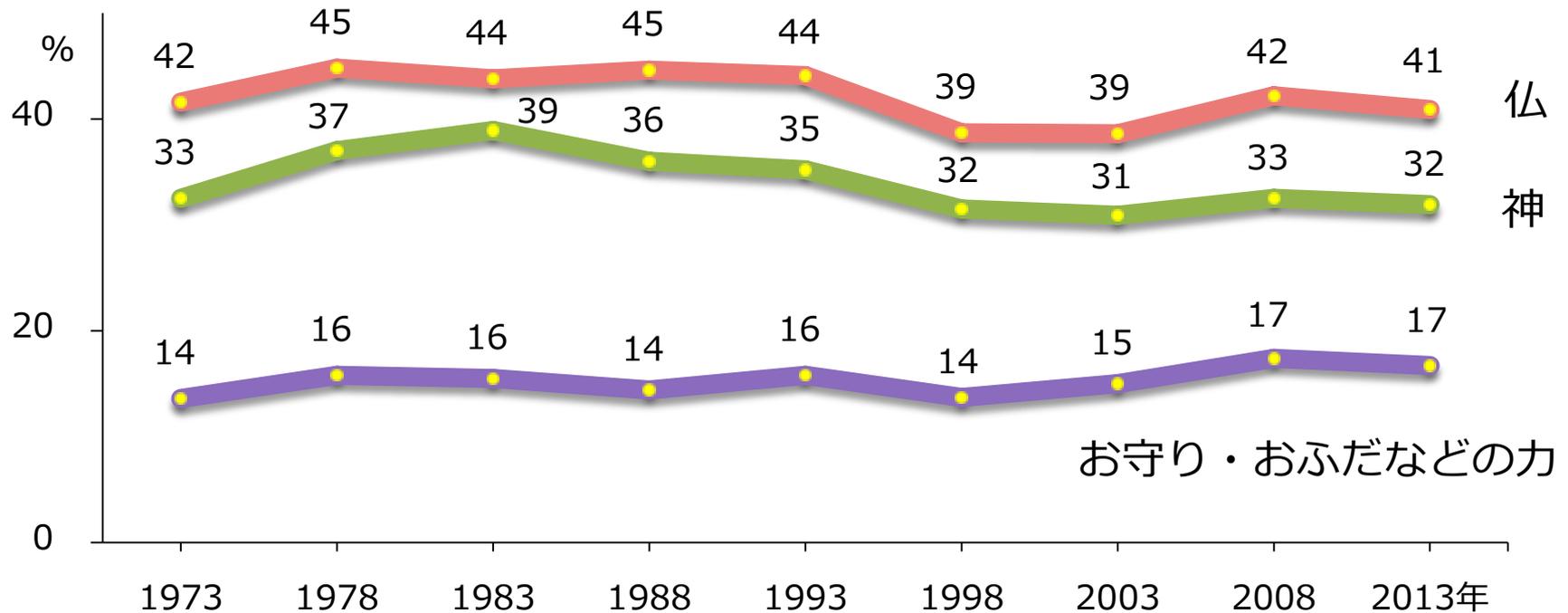
## 必ずしも結婚する必要はない（生年別）



# 信仰・信心

信仰をもつ人は増える？減る？

→「信じているもの」この5年はほぼ変化なし



(複数回答 上位3項目)

# 5年で増減の大きい項目

質問	選択肢	2008年	2013年	変化量
日本は一流国だ	そう思う	39%	54	15
日本は一流国だ	そうは思わない	53	38	-15
政治課題	経済の発展	25	37	12
日本人はすぐれた素質をもっている	そう思う	57	68	11
天皇に対する感情	無感情	39	28	-11
天皇に対する感情	尊敬	25	34	9
日本人はすぐれた素質をもっている	そうは思わない	34	25	-9
支持政党	自民党以外の政党	23	14	-9
家庭と女性の職業	両立	48	56	8
政治課題	福祉の向上	28	20	-8





# ● 縦軸

## – 上方方向

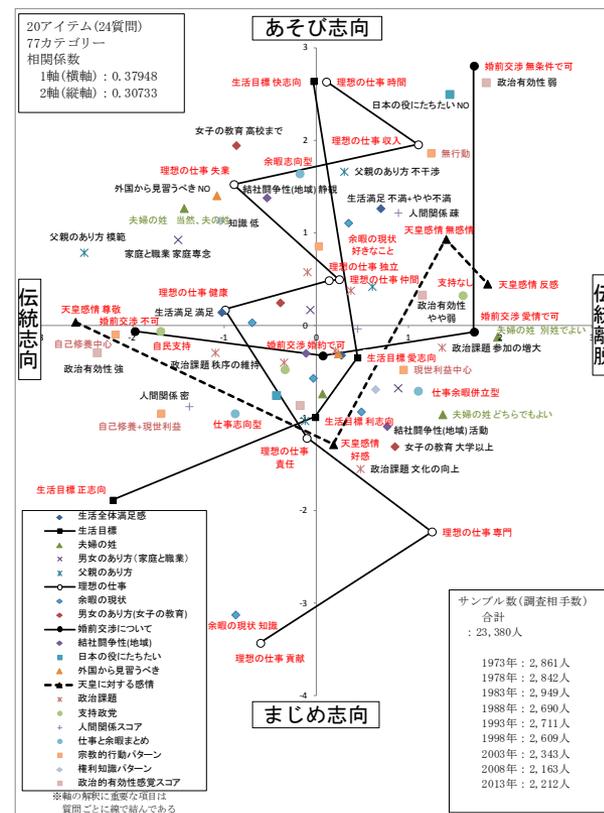
- 婚前交渉「無条件で可」
- 生活目標「その日その日を楽しむ」
- 理想の仕事「働く時間が短い」など

→ 「あそび志向」

## – 下方方向

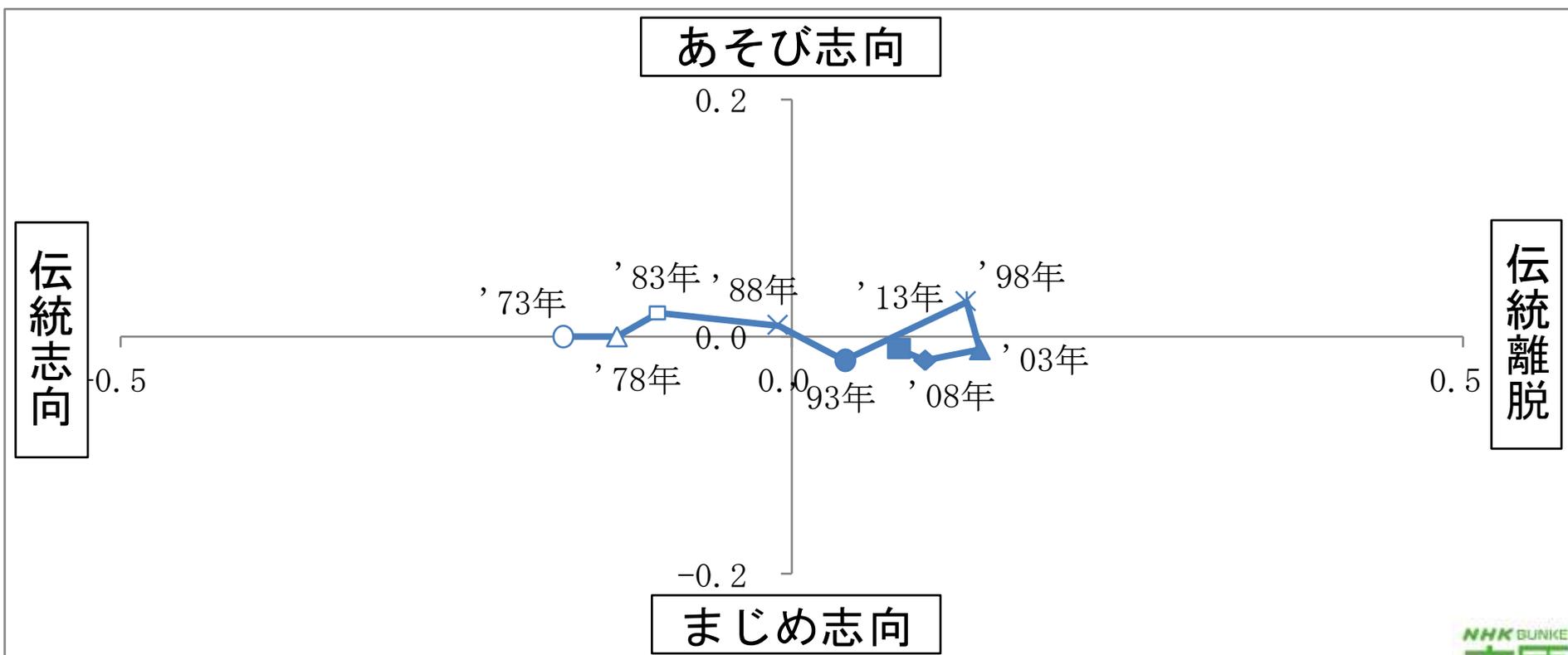
- 理想の仕事「世の中のためになる」
- 余暇の過ごし方「知識を身につける」
- 生活目標「世の中をよくする」など

→ 「まじめ志向」



# 全体の変化

- 1973～2003 伝統志向から伝統離脱の方向へ
- 2003年が転換点、反転して伝統志向の方向へ



# 世代別の変化

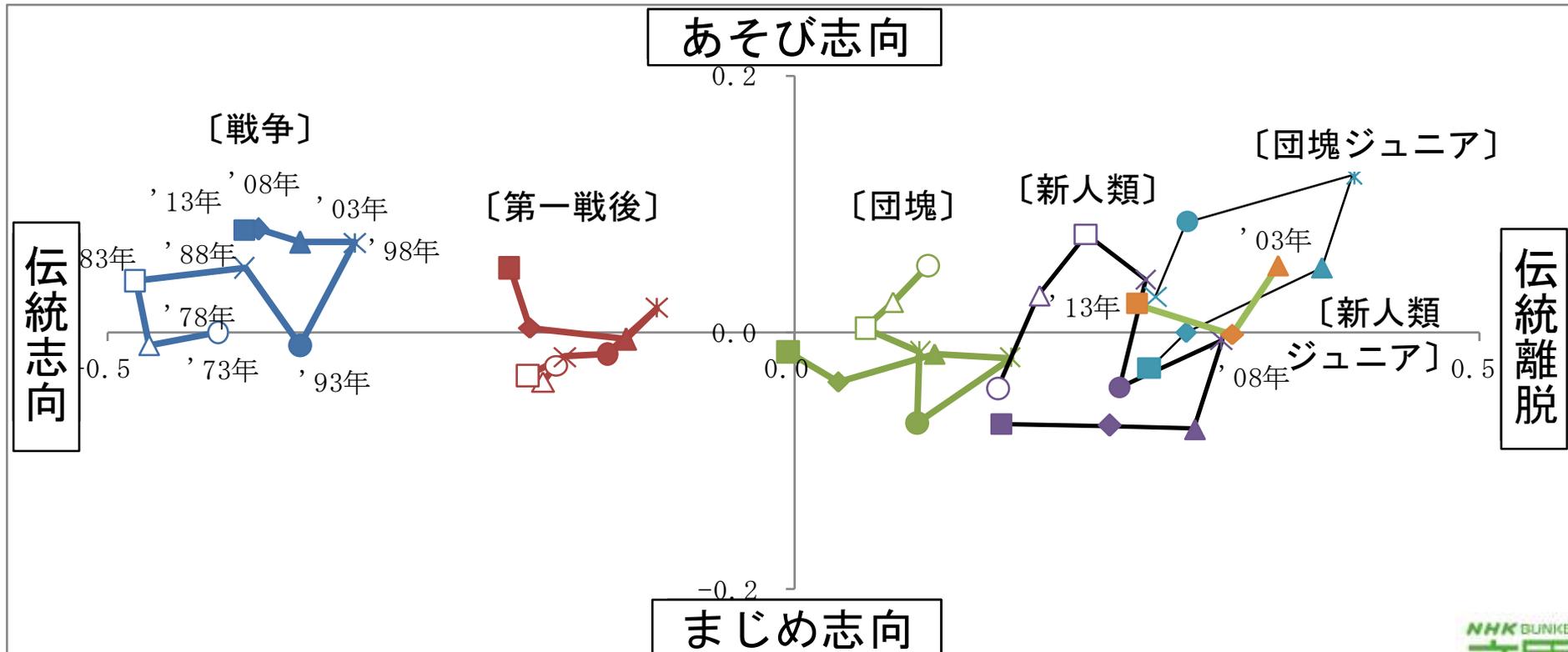
## ● 世代区分

生年	世代の名称 (2013年調査時の年齢)
1898年以前	戦争 (85歳～)
1899-1903	
1904-08	
09-13	
14-18	
19-23	
24-28	
29-33	第一戦後 (70～84歳)
34-38	
39-43	

生年	世代の名称 (2013年調査時の年齢)
44-48	団塊 (60～69歳)
49-53	
54-58	新人類 (45～59歳)
59-63	
64-68	
69-73	団塊ジュニア (30～44歳)
74-78	
79-83	
84-88	新人類ジュニア (16～29歳)
89-93	
94-97	

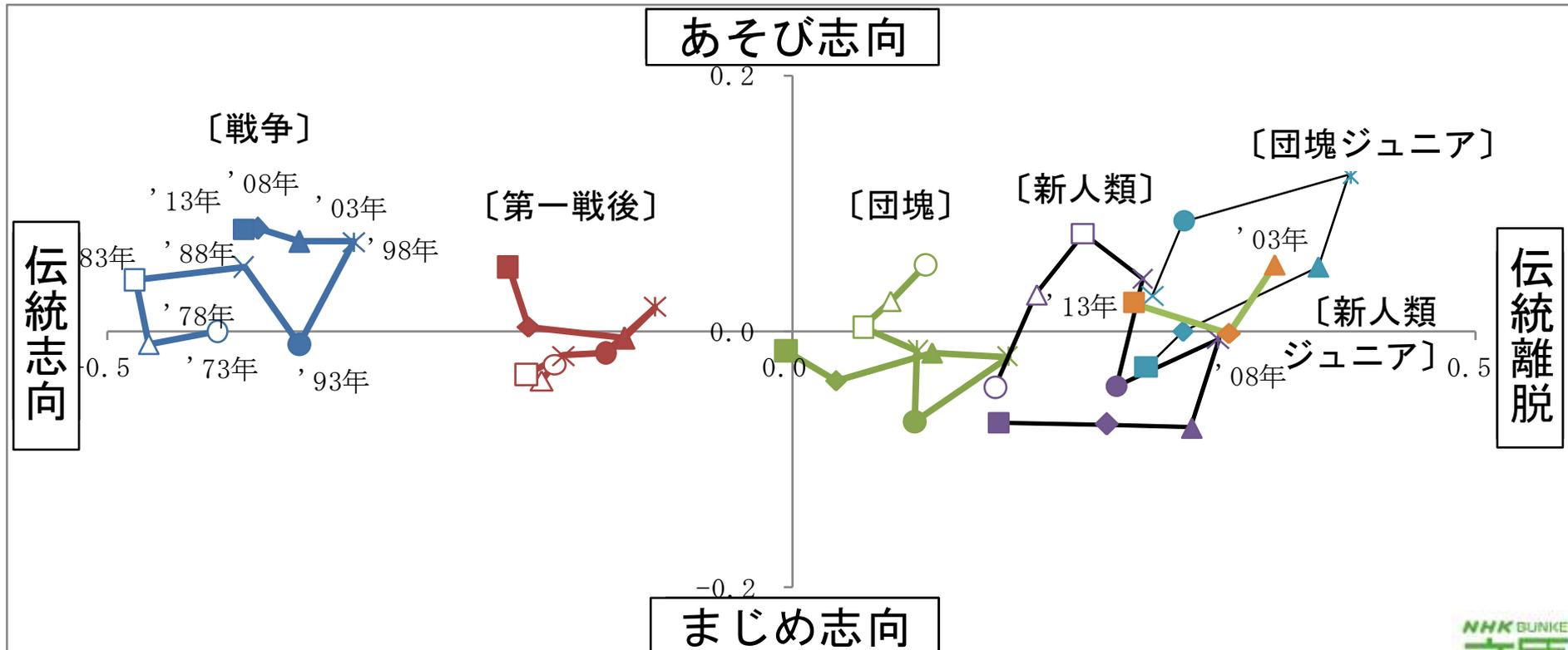
# 世代別の変化

- 世代別にみた場合すべての世代で1998年が転換点  
以降は各世代とも伝統志向の方向へ



# 世代別の変化

- 若い世代ほど伝統離脱の傾向が強い
- 若い世代ほど世代間の差が小さい



# 調査結果について

- 放送文化研究所ホームページ
  - 社会や政治に関する世論調査
    - 結果の概要
    - レポート「日本人の意識・40年の軌跡」  
(放送研究と調査2014年7・8月号掲載分)

The screenshot shows the NHK ONLINE website interface. At the top, there is a navigation bar with the NHK ONLINE logo and a search bar. Below the navigation bar, there is a main menu with several categories: ホーム (Home), 調査・研究成果 (Survey/Research Results), 世論調査 (Public Opinion Survey), ことば(放送用語) (Language/Broadcasting Terms), 刊行物 (Publications), 文研フォーラム(研究・シンポ) (Forum/Research/Symposium), and 放送文化研究所とは (About the Institute). The current page is titled '社会や政治に関する世論調査' (Public Opinion Survey on Society and Politics). The breadcrumb trail is 'ホーム > 世論調査 > 社会や政治に関する世論調査'. The page content includes a search bar, a list of survey results, and pagination controls. The page number is 1, and there are 127 items in total. The page also features a 'サマリー' (Summary) button and a '詳細' (Details) button.

- 単行本  
「現代日本人の意識  
構造 [第八版]」  
(NHKブックス)

